

Seaside grand design of Kamogawa city 鴨川市

海辺のグランドデザイン



目次

第1章	ランドデザインの目的と位置付け	5
1	ランドデザイン策定の目的	6
2	ランドデザインの位置付け	7
3	SDGsとの連携	8
第2章	前原横渚海岸周辺地域の現状と課題	9
1	対象地域の設定	10
2	対象地域周辺の現状と特性	11
3	対象地域の主要課題	16
第3章	まちづくりの方向性	23
1	目指す将来像	24
2	ゾーンごとの将来像	26
第4章	ランドデザイン実現に向けた取組	41
1	基本的な考え方	42
2	推進体制の整備	44
参考資料	(ランドデザイン策定に向けて実施した取組)	45
1	パーソントリップ調査	46
2	高校生ワークショップ	54
3	関係団体との意見交換会	58
4	シンポジウム	60

鴨川市海辺の

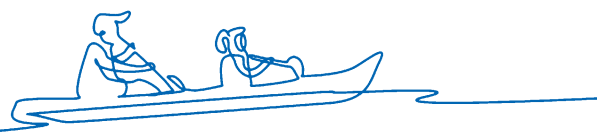
グランドデザイン

Seaside grand design of Kamogawa city



第1章

グランドデザインの目的と位置付け



1. グランドデザイン策定の目的

鴨川市が取り組む前原横渚海岸周辺地域の賑わい創出や地域活性化を図る「海辺の魅力づくり推進事業」を推進するため、当該地域の将来像を定める「鴨川市海辺のグランドデザイン」を策定し、「海辺の魅力づくり推進事業」の中長期的な視点として、市民、民間事業者、行政などの全ての関係者が目指すべき方向性を共有する。

海辺の魅力づくり推進事業の経緯

「前原横渚海岸周辺の魅力づくりに関する計画」の策定

前原横渚海岸周辺地域は、日本の渚百選に選ばれた前原横渚海岸を有しながらも、海の魅力低下による来訪者の減少、商店街の空き店舗の増加などにより、賑わいが失われつつあり、こうした状況を踏まえ、平成29年2月に「前原横渚海岸周辺の魅力づくり

に関する計画」を策定し、地域の目指すべき姿として捉えた基本構想を定めている。当該構想においては、コンセプトとして定めた「良質な日常の提供」に基づいた必要な4つの機能を定めている。

<必要な4つの機能>



エリアの活性化に向けて、統一的な方向性を示し、プロジェクトマネジメントを担う。また、他施策との連携を積極的に図り、鴨川市全体の活性化につなげていく機能を備える。



鴨川市外から訪問する人に対するワンストップ窓口となり、必要な情報を提供する。また、待合や地域産品販売などの機能も併せ持つ。



市民の生活を支える機能、行政機能や防災機能を持たせ、市民が日常的に活用する場とする。



訪問客と地域の魅力の交流を促す機能、人が集う場所やコンテンツを提供する。

民間事業者参入調査の実施

令和2年度には、観光拠点機能、生活支援機能等を提供する拠点の一つである旧鴨川市市民会館の周辺地域を対象に、観光・まちづくり振興拠点の整備、運営、維持管理等について民間事業者

のノウハウを生かすべく民間事業者参入の可能性調査を行い、基本構想の実現に向けた具体的な検討を行った。

「鴨川市魅力体験広場」の整備及び利活用事業の実施

「前原横渚海岸周辺の魅力づくりに関する計画」に定める基本構想を踏まえた具体的な施策として、フィッシャリーナ後背地にホワイトサンドや休憩棟の設置を行い、「鴨川市魅力体験広場」の整備を行った。

また、令和3年度には「鴨川市魅力体験広場」利活用事業として、同広場の一部を借り受けて賑わい創出事業を行う民間事業者の公募・選定を行い、現在、選定した事業者による新たな観光施設の運営がなされている。

2. グランドデザインの位置付け

上位計画及び関連計画との整合性を確保

グランドデザインは、平成28年3月に策定した「第2次総合計画」の後半5年間の基本計画である「鴨川市第4次5か年計画」を最上位計画とし、同計画や「第2期鴨川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」との整合・連携を図る。

また、平成28年3月に都市計画法第18条の2に基づいて策定した「鴨川市都市計画マスタープラン」のとりわけ地区別構想における「鴨川地域」との整合・連携を図る。

加えて、平成29年2月に策定した「前原横渚海岸周辺の魅力づくりに関する計画」に定める対象地域の目指すべき姿として捉えた基本構想との整合・連携を図る。



3. SDGs^{※1}との連携

平成27年(2015年)9月、国連サミットで「持続可能な開発目標」(SDGs)が採択された。これは「誰一人取り残さない」をテーマに持続可能で多様性と包摂性^{ほうせつせい}のある社会の実現に向け、17のゴールと169のターゲットから構成されている国際目標である。

我が国政府においても、平成28年(2016年)5月にSDGs推進本部を設置し、同年12月に実施指針を策定しており、全国の地方自治体及びその地域で活動するステークホルダーや民間企業における活動が進んでおり、機運が醸成されつつある。

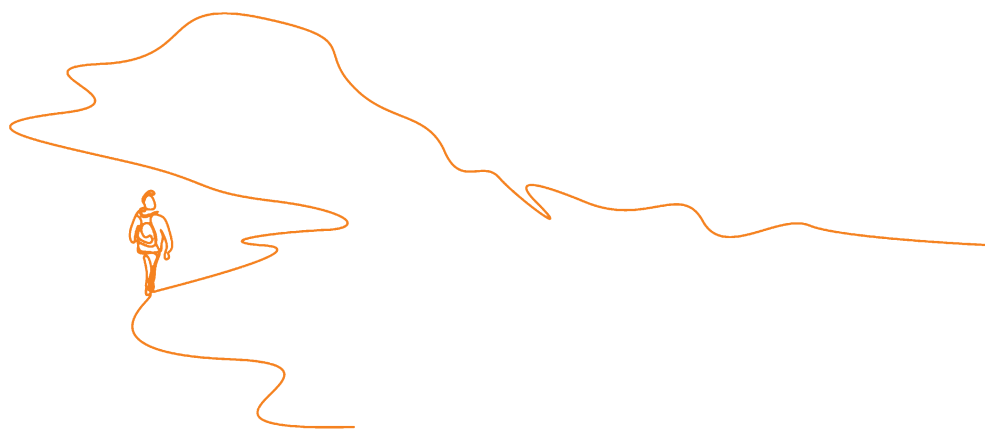
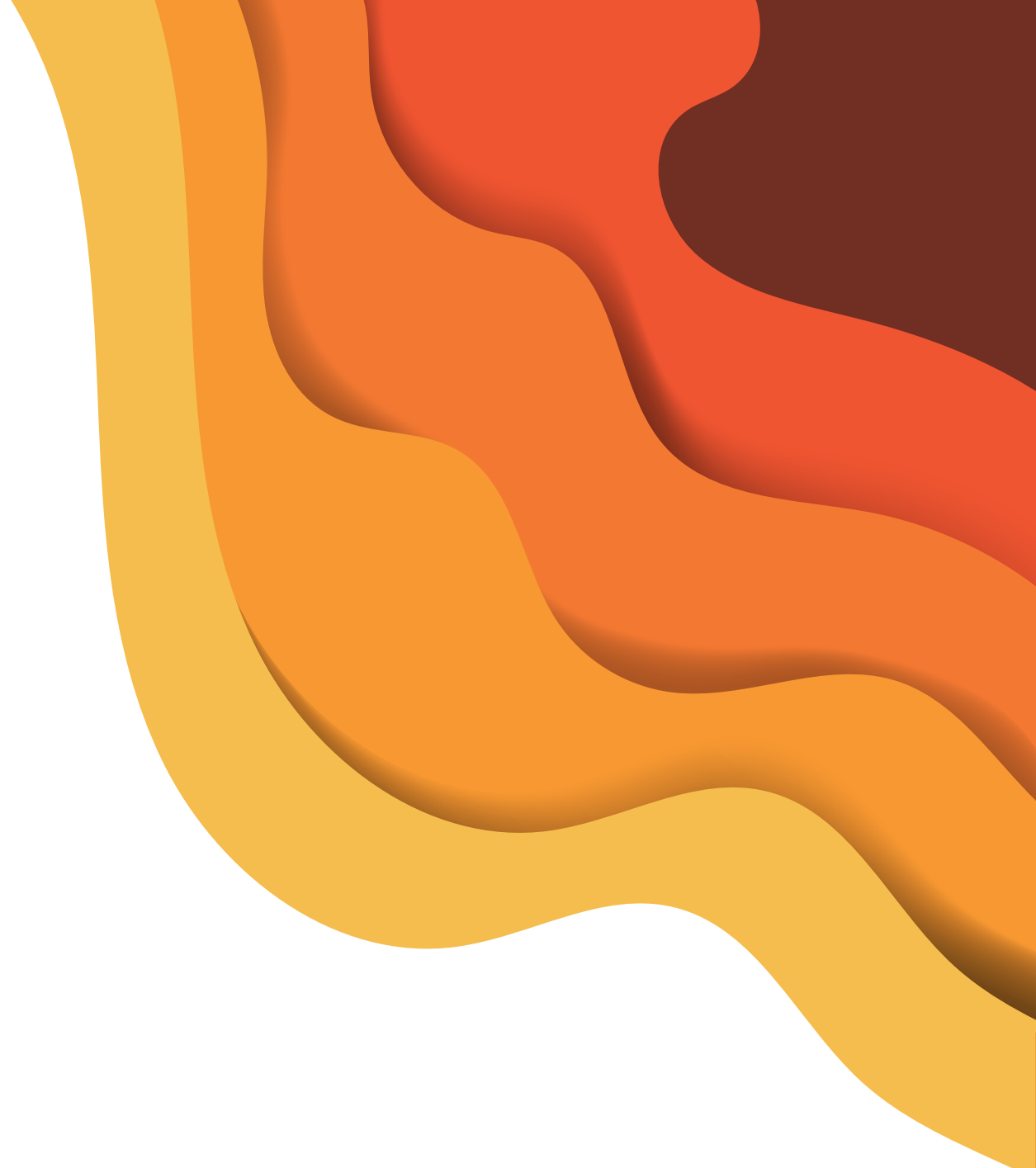
観光業界におけるSDGsの取組や旅行者の意識は、十分浸透しているとはいえない状況であるが、エシカル消費志向を背景に、今後、SDGsの達成に配慮した商品やサービスへの需要が高まることが予想される。

グランドデザインにおいては、市民にとっても来訪者にとっても、誰もが心地よく過ごすことのできる持続可能な海辺の実現に向けたまちづくりを推進する。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



※1 SDGsとは…Sustainable Development Goalsの頭文字をとったものであり、平成27年9月の国連サミットで採択された「地球上の全ての人が幸せになるように誰もが協力して実現していく目標」をいう。

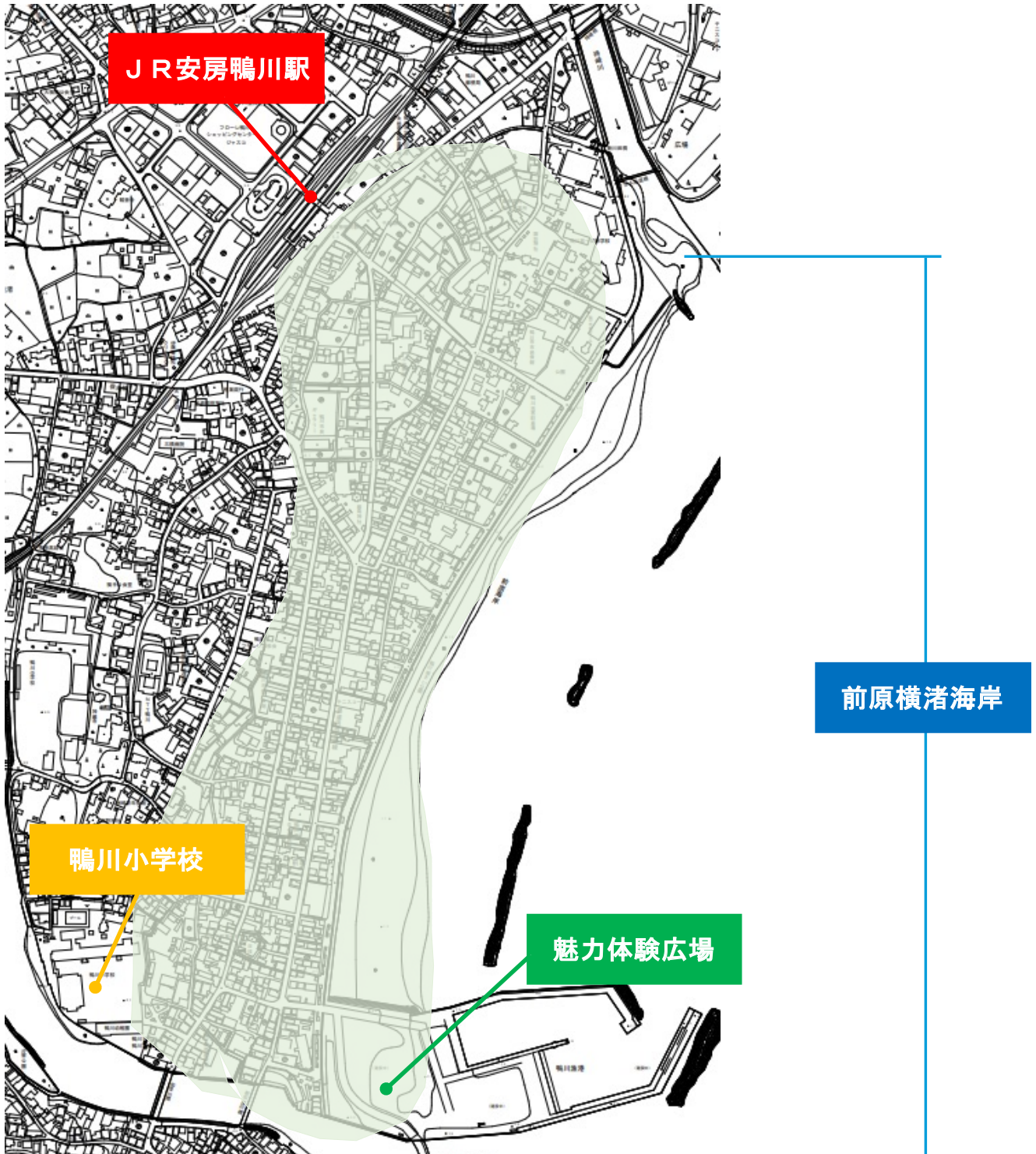


第2章

前原横渚海岸周辺地域の現状と課題

1. 対象地域の設定

グランドデザインの対象地域は、前原横渚海岸周辺地域とし、後背市街地や旧鴨川市市民会館、鴨川市芝浜プール、鴨川潮さい公園、海浜プロムナード、鴨川市魅力体験広場周辺も含むものとする。また、JR安房鴨川駅から旧鴨川市市民会館までのアクセス道路もグランドデザインの対象地域とする。



2. 対象地域周辺の現状と特性

2.1 都市計画の状況

対象地域は、「鴨川市都市計画マスタープラン」でJR安房鴨川駅周辺の区域を「商業業務ゾーン」、太平洋に面した沿岸部の区域

を「海浜ゾーン」と設定されており、それぞれのゾーンの基本方針が定められている。

「商業業務ゾーン」の基本方針

本市の活力を担う商業業務機能の拡充

商 業業務ゾーンは、市民生活の拠点となる本市の中心的な商業業務地であるとともに、市内観光の拠点的作用を果たすことから、引き続き、商業業務機能の利便性の向上に向けて新たな店舗や事務所等の立地を促進し、拠点性と回遊性を持った魅力ある市街地の形成を目指します。

中心市街地の再生

安 房鴨川駅周辺に形成されている中心市街地については、市民のみならず、来訪者を迎える本市の顔としての役割を担っていることから、人が集い賑わいを創出する、魅力ある市街地づくりに向けて、既存商業機能の拡充や点在している空き店舗の活用、各地域拠点へアクセスする電車・バス等の交通結節点としての機能拡充を図ります。

「海浜ゾーン」の基本方針

本市を象徴する魅力ある海浜づくり

海 浜ゾーンは、本市を象徴する海浜景観を構成するエリアとして、引き続き、適切な管理・保全と魅力の創出に向けた活用を推進します。

保安林や南房総国定公園に指定されているエリアについては、各法令に基づいた適切な管理・保全を図るとともに、市民やリゾート産業をはじめとする事業者など、多様な主体の連携により、海浜景観の魅力向上に資する取組みを推進します。

本市の新たな魅力づくり、更には美しい海岸を有するまちとしてのイメージとブランドの確立に向け、フィッシャリーナから待崎川河口周辺に至るまでを中心として、東条・前原・横渚海岸一帯の再整備・利活用計画を策定します。

こうした基本方針を踏まえ、JR安房鴨川駅周辺の区域は、「鴨川市都市計画区域」に指定され、既存市街地を中心に用途地域が指定されており、駅周辺には商業系の用途地域が指定されている。

また、火災に強い建物の立地を促進するため、安房鴨川駅西口の商業地域には防火地域が指定され、近隣商業地域の全域と第一種住居地域の一部においては準防火地域が指定されている。

2.2 公共交通機関の現状

鉄道網は、沿岸部をＪＲ外房線及び内房線が運行し、市内に５つの鉄道駅を有している。そのうちＪＲ安房鴨川駅は、両路線の結節点として位置づけられている。

また、バス交通は、現在、コミュニティバスが３路線、民間バス路線が６路線、本地域と東京・千葉を結ぶ高速バスが３路線整

備されており、ＪＲ安房鴨川駅を中心とした交通網が整備されている。

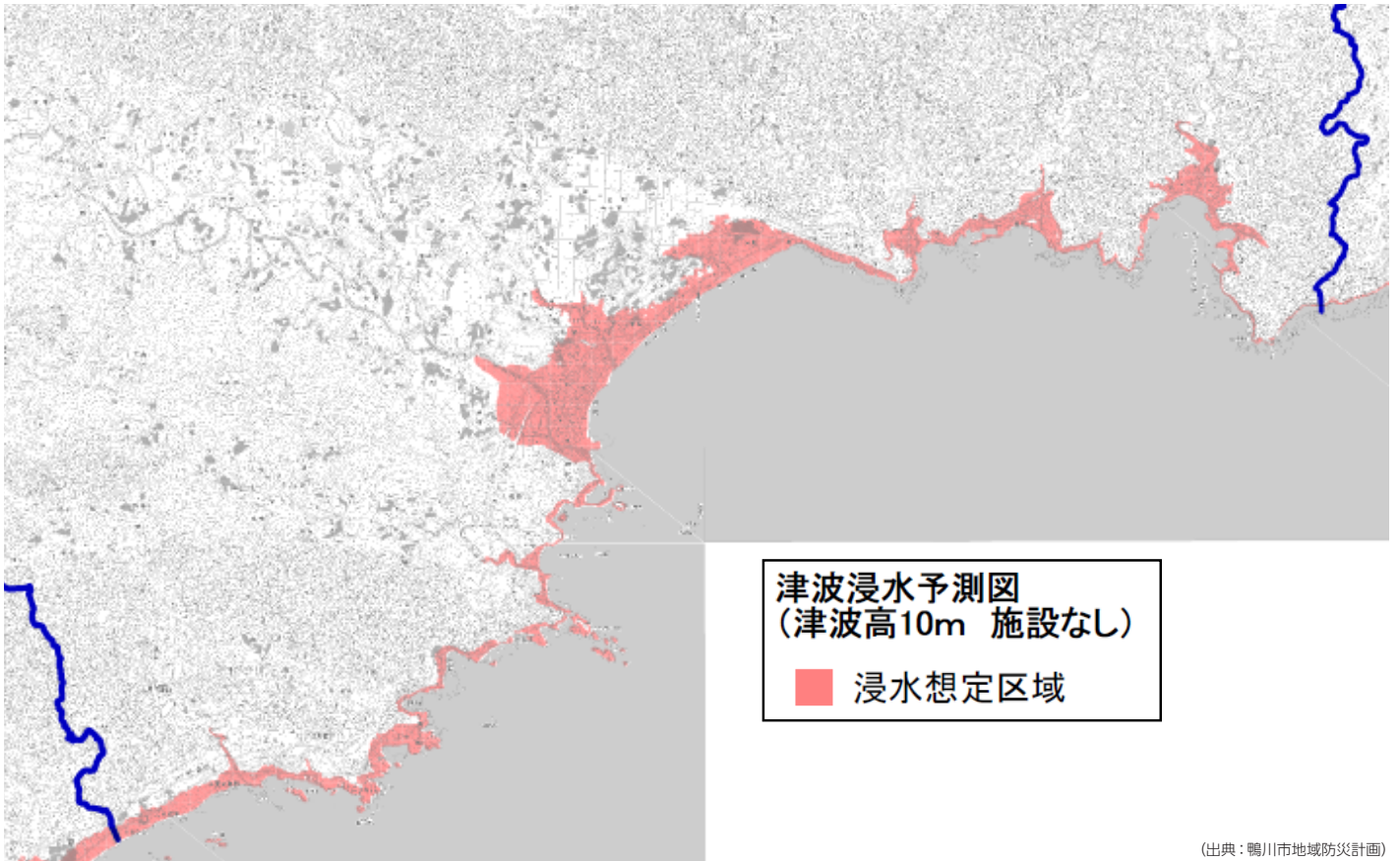
タクシーについては、市内に本社を置く事業者１社と営業所を置く２社が運行しており、いずれも対象地域に営業所等を有している。



2.3 災害危険性

本市における過去の津波実績では、元禄地震の8mの津波が最大であるが、ランドデザインでは、千葉県による津波浸水予測図(平成23年度)の津波高10mを想定津波とする。津波浸水予想区域に含まれる建物数(住家)は、約3,000棟であり、概ね7,000人が被災人口と想定される。

また、令和2年度に実施したまちづくりアンケート調査では、防災対策に特に力を入れて取り組む必要があると多くの方が回答していることから、市民の防災に関する意識は高いものとなっている。



2.4 商業・観光の現状

商業の現状

JR安房鴨川駅の周辺は、商業地が形成されており、駅周辺の市街地は、本市の玄関口として魅力ある環境づくりが求められるものの、幹線道路沿道での大型店舗の立地や後継者不足等によ

て商店街の衰退が進んでおり、本市の中心市街地としての賑わいが失われつつある。

観光の現状

対象地域にある「前原横渚海岸」は、『日本の渚百選』に選定され、ゆるやかな美しい海岸線を有しており、海辺に沿って植えられたヤシの木が南国ムードを醸し出している。また、全長約1キロメートルに渡る海岸沿いの遊歩道「海浜プロムナード」や、遊具等を備えた「鴨川潮さい公園」が整備されている。このエリアでは海を間近に感じながらウォーキング・ランニングなどを楽しむことができる。

しかしながら、2020年1月以降、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、観光需要は大きく減少し、全国的には、観光白書（令和3年版）によると令和2年の日本人の国内宿泊旅行者数は前年比48.4%減、国内日帰り旅行者数は前年比51.8%減となっている。本市の観光も大きな打撃を受けており、鴨川市観光統計によると、新型コロナウイルス感染症の拡大や緊急事態宣

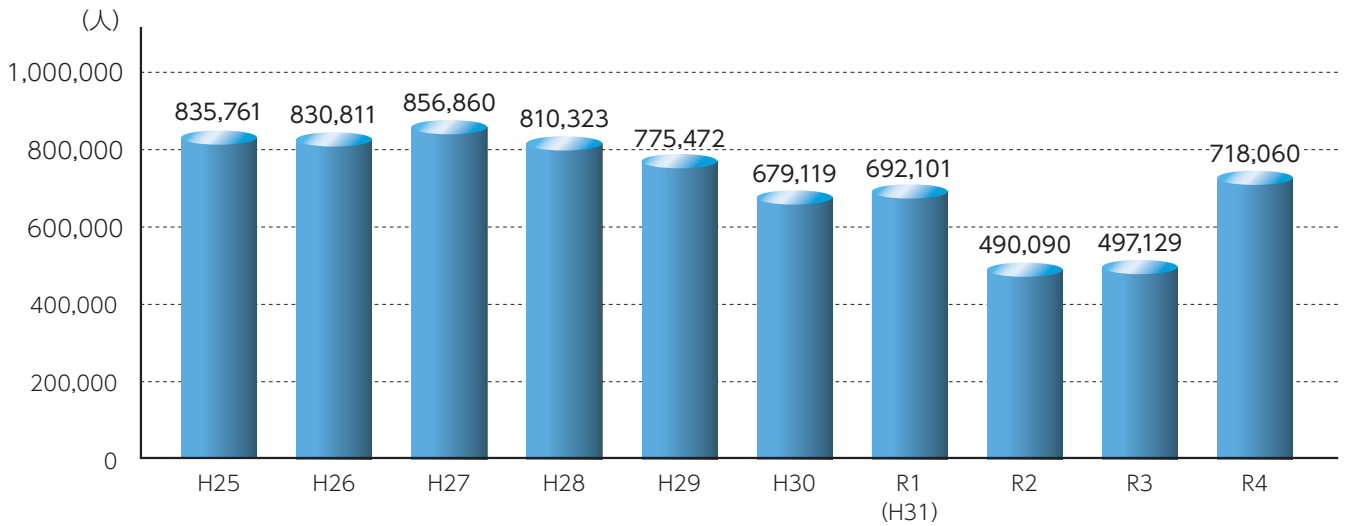
言発令等の影響で、令和2年前半の宿泊者数の落ち込みは顕著である。国や千葉県などによる旅行割キャンペーンなどの支援策により持ち直した状況が見取れるものの、これらキャンペーン終了に伴う観光需要の落ち込み等が危惧されるところである。

また、公益財団法人日本交通公社（JTBF）の調査によると、コロナ収束後の旅行意向として、令和2年7月以降、「これまで以上に旅行に行きたい」との割合が増加している。また、「年代別にみると、10代から30代の若者の旅行意向が強い傾向となった。」とされている。

こうしたことから、今後は、ウィズコロナ、アフターコロナにおける観光ニーズを的確に捉え、対象地域の魅力ある観光資源を最大限に活用した新たな観光地域づくりを推進していく必要がある。

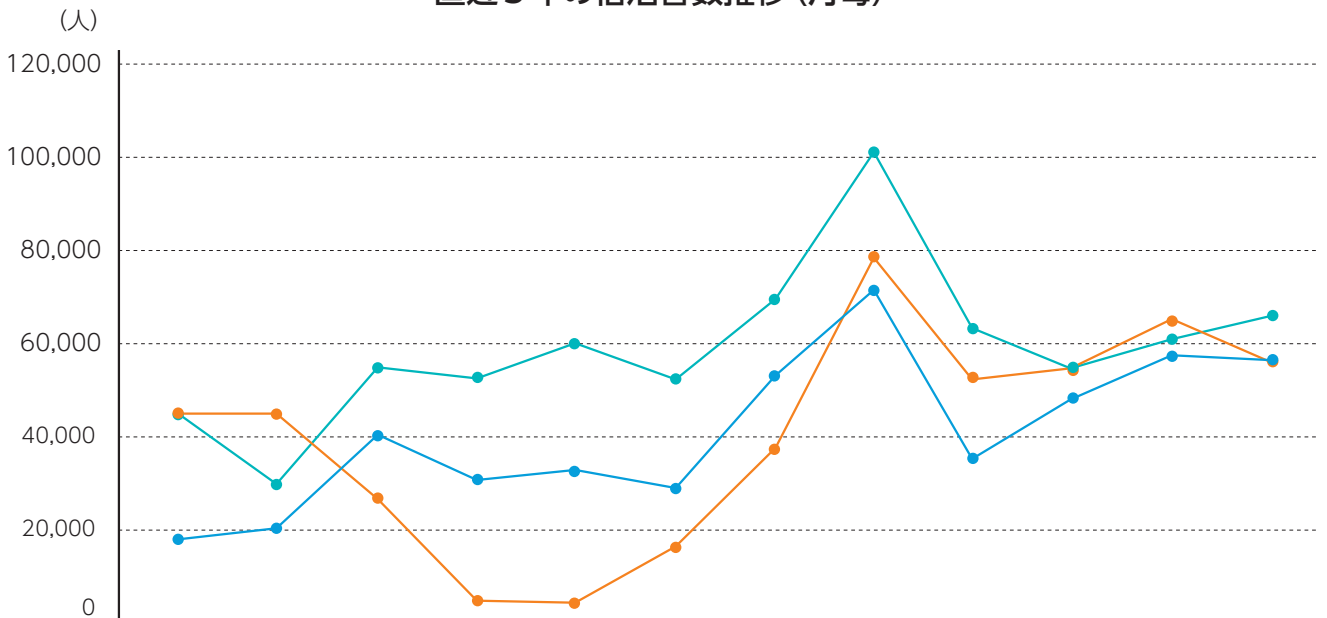


宿泊客総数



(出典：鴨川市観光統計)

直近3年の宿泊客数推移(月毎)



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
R2	45,085	45,372	27,758	5,231	4,505	16,289	37,559	78,815	52,742	55,924	65,371	55,439
R3	18,176	20,463	40,567	31,233	33,169	29,249	52,903	72,285	35,465	48,592	57,906	57,121
R4	45,268	31,187	55,629	53,436	60,611	53,648	69,868	101,198	63,776	55,908	61,465	66,066

(出典：鴨川市観光統計)

3. 対象地域の主要課題

対象地域における主要課題の特定に当たっては、令和2年度に実施した旧鴨川市市民会館跡地の民間参入可能性調査の結果をもとに、グランドデザイン策定に当たり実施した「パーソントリップ調査」、「高校生ワークショップ」、「シンポジウム」のほか、第4次5か年計画策定時に行った「まちづくり市民アンケート調査」の結果等を用いて整理するものとする。

3.1 道路交通ネットワーク

観光客の受入態勢が脆弱

本市の主要観光施設である鴨川シーワールドへの来訪者のアクセス手段は、約75%が自家用車によるものであり、本市全域の観光動向を鑑みても自家用車利用の観光客が多い実態がある。実際、対象地域における来訪者のほとんどが自家用車によるものであるが、駐車場の収容台数に限りがあり、路上駐車が散見される。

また、公共交通によるアクセスについては、鉄道、バスともに運行本数が少ないため利便性に欠ける。鉄道の利用者は一定数いるものの、安房鴨川駅については待合室のスペースが狭く、駅利用者数との釣り合いが取れていない。



駐車場の収容規模が不十分であり、夏期間を中心に路上駐車が散見される

安全性の確保と海の景観保全が課題

対象地域の道路は、交通量が多いことに加え、全体的に道幅が狭く大型車両の通行に支障があるほか、国道からのアクセス性にも問題がある。

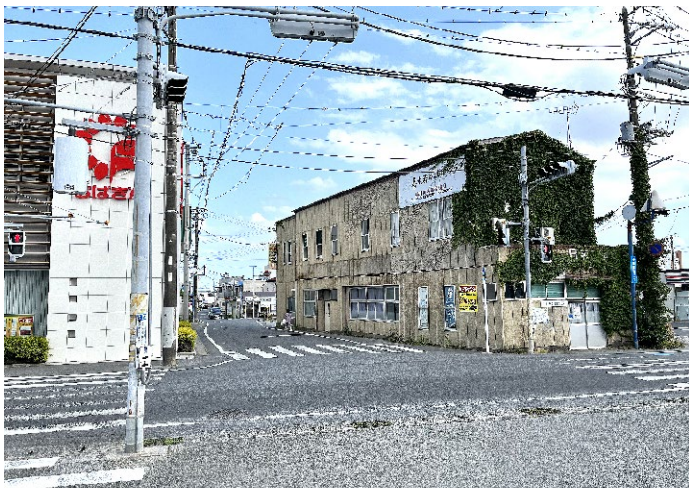
また、歩行者にとっては、海岸近くの商店街は歩道が狭いこと、海岸沿いの道路は路上駐車が多く通行の妨げになることから、徒歩移動時の安全性や快適性に課題がある。海岸へ出るための通路は段差があるため、幼い子どもや高齢者、障がいを抱える方にとっ

てはアクセスしづらい環境である。

なお、海辺周辺の道路については、砂がたい積していたり、草が生い茂っているケースも見られ、歩行の妨げになるほか、美しい海の景観を損ねかねない現状である。安房鴨川駅から海岸に向かう道路においては空き店舗が散見されるほか、墓地などが隣接しており、観光地のイメージにそぐわない景観である。



商店街の道幅が狭く、歩行者の安全面に課題がある



駅前に観光地のイメージがない



道路から海岸へのアクセスに課題がある

3.2 観光機能（自然）

海岸への誘導・レジャー機能

市街地ゾーンは、後継ぎがないなど閉店している店舗が多く、賑わいや活気を創出できていない状況にある。

駅前から海岸までの通りにおいても、海岸に誘導する案内サインなども見当たらず、観光客が浜辺まで辿り着くまでの道も観光

地としての雰囲気づくりができていない。

さらには、宿泊施設や飲食店、駐車場、シャワー・更衣室など海のレジャーのための施設が十分に整備されておらず、観光客滞在のための環境が整っていない。



商店街に閉店している店舗も多く見受けられる



駅前に観光地としての雰囲気が醸成されていない



海岸沿いにシャワー・更衣室などの施設が十分に整備されていない

イベント施設

イベント会場がなく、また、海を活かした賑わい創出イベント等の企画もなされていない。域外はもとより、市民が海辺を楽し

む要素が不足している。

主要観光スポットからの送客

本市の主要観光施設で行ったパーソントリップ調査では、来訪者の約8割が市内のその他の観光地に立ち寄る予定がないと回答

しており、観光客を対象地域に誘客できていない。



鴨川シーワールド



鴨川オーシャンパーク

地域資源の付加価値化

観光客を対象としたウェブアンケートでは、物販・お土産、情報の収集に関する満足度が低い結果となっている。

また、観光のモデルケースの提案や特産品を活用したお土産品の販売などを望む声が見られた。

さらには、ランドデザインの策定に当たり実施した高校生ワークショップでは、SNSで「バズる」ような映えスポットがないなどの意見もあり、観光資源の付加価値化が実現できていない。

滞在・移住ニーズへの対応

市内には移住相談や空き家物件の提供などを行う「ふるさと帰郷支援センター」があり、長期滞在やお試し移住などを受け入れる施設もある。

本地域においてもそれらと連携し、長期滞在や移住等のニーズに対応できる機能を備えていく必要がある。

3.3 娯楽機能

海を楽しむための機能

海水浴及びサーフィン等を楽しんだ方が利用できる温水シャワーやリラクゼーション施設等がないため、海を快適に楽しむた

めの環境が整っていない。



海浜プロムナードに温水シャワーやリラクゼーション施設がない

市民の憩いの場の機能

公園はあるものの、遊具の老朽化が進行している。また、雨除けがないため雨天時に遊ばせることが難しい。

さらには、飲食店等が少なく、海岸沿いの娯楽機能が不十分である。



公園遊具が老朽化している



海沿いに飲食施設などが少ない

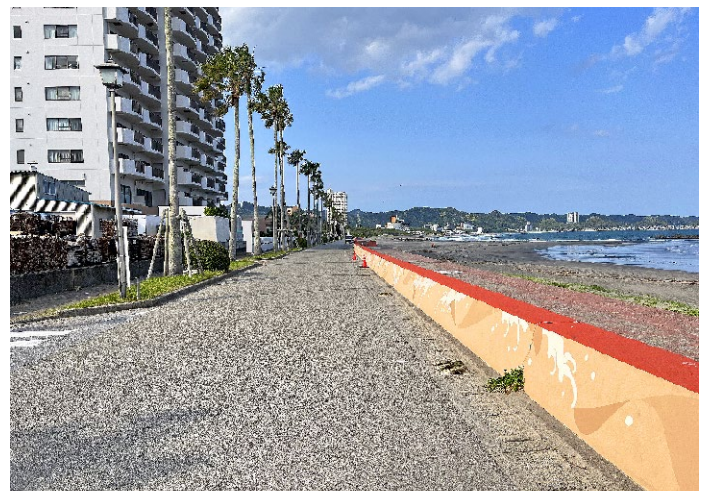
3.4 商業・飲食機能

商業施設・飲食店

対象地域において、閉店などにより営業している店舗が少ないことに加え、カフェなどのくつろぐことができる施設がなく、海のロケーションを活かした誘客や賑わいを創出できていない。また、勤労世代や子育て世代、高齢者など多様なニーズに対応でき

る飲食機能やアクティビティがない。

また、観光客を対象としたウェブアンケートでは、物販・お土産についての満足度が低い結果となっていることから、観光客の購買意欲を満たす商品、商業施設が少ない。



商店街には閉店している店舗もあり、海辺には飲食機能などが少ない

3.5 芸術・文化機能

芸術・文化の取組

対象地域では、旧鴨川市市民会館が廃止となったほか、駅から徒歩5分の距離にある市民ギャラリーが閉鎖となっている。

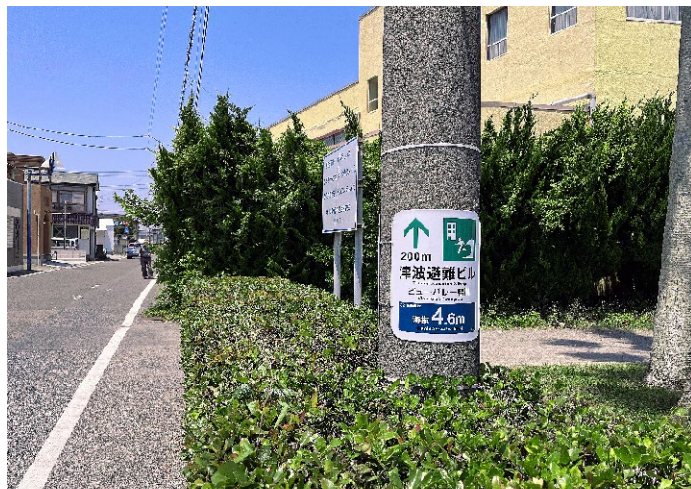
まちづくり市民アンケート調査では、「芸術・文化活動の振興」の

項目の満足度が低く、市内の高校に通う生徒を対象に行った高校生ワークショップにおいても、「文化機能を有する施設が充足していない。」という意見も寄せられている。

3.6 防災機能

自然災害に対する防災対策

旧鴨川市市民会館は目の前に海を臨む環境にあるが、海拔が4メートルと低く、津波リスクに晒されている。



海拔が低く、津波リスクが高い

また、まちづくり市民アンケート調査では、「災害に強い都市」[防災対策]などが望まれる結果となっている。



3.7 教育機能

教育施設

対象地域及び近隣に小学校や高等学校、大学があるが、生徒や学生が利用可能な学習塾や自学自習用の施設が少ない。

3.8 健康福祉機能

障がいを抱える方や高齢者などの利用対応

遊歩道に段差があること、点字や音声などによる案内機能が整備されていないなど、障がいを抱える方や高齢者、幼児などの利

用に向けた取組が不十分である。

健康増進・リラクゼーション機能

ランニングやウォーキングなどを行う方向けの運動設備やアウトドアフィットネスなどの体力づくりに資するような活動場所が

整備されていないため、健康増進機能やリラクゼーション機能が不足している。

第3章

まちづくりの方向性



1. 目指す将来像

対象地域の将来像の検討に当たっては、旧鴨川市市民会館周辺エリア及び鴨川市魅力体験広場周辺エリアを拠点として捉え、対象地域の賑わい創出や地域活性化を目指すものとする。

1.1 ゾーニング

将来像の設定に当たっては、「前原横渚海岸周辺の魅力づくりに関する計画」にて設定したゾーニングを基礎に、「鴨川市魅力体験広場利活用事業」において新たに検討を加えた以下4つの区域に分け、それぞれの特性を活かしつつ地域課題の解消に必要とされる機能や施設を検討する。



パークゾーン (鴨川市魅力体験広場)

市民や観光客が本市の魅力を経験することのできる地域の賑わい創出を目指す交流拠点ゾーン

海を感じながら散策を楽しめる「ビーチショップロード」と海の魅力を体験できる「アクティビティエリア」の2つのエリアからなるリゾート気分を醸し出すゾーン

【ビーチショップロード】 (海浜プロムナード)

日本の渚百選である海を満喫できるエリア

【アクティビティエリア】 (海岸線一帯)

サーフィン、海水浴、カヌー、ビーチバレー、ヨガ、フラ、散策など海を活かしたアクティビティやイベント、施設が充実した鴨川の新たな娯楽空間エリア

プロムナードゾーン

後背市街地ゾーン (市街地)

古くからの商店と新しいショップが入り交じり、趣のある街並みの雰囲気を醸成する地域の芸術・文化・商業の新たな中心地ゾーン



エントランスゾーン

海の玄関口「エントランスロード」と多くの人で賑わう交流の拠点「フロントエリア」の2つのエリアからなるゾーン

【エントランスロード】
(J R 安房鴨川駅から海岸まで)
海を身近に感じ、レジャー・リゾート感を醸し出す海岸へのアプローチエリア

【フロントエリア】
(旧鴨川市市民会館周辺エリア)
市内外から多くの人が集い、遊び、くつろぎ、様々な機能を備える多世代交流の拠点エリア

2. ゾーンごとの将来像

2.1 エントランスゾーン

目指す将来像

エントランスロード

～海を身近に感じ、レジャー・リゾート気分を醸し出す海岸への玄関口～

駅からは環境にやさしいモビリティで海辺へ

J R 安房鴨川駅から海岸までの道のりは、景観に配慮された道路環境などが整備され、歩くだけでレジャー・リゾート気分を味わうことができる。駅から海岸までの少し遠い道のりも、環境に配慮された新たなモビリティや電動キックボードなどのシェア

サービスを利用し、快適に移動することが可能となっている。歩いて海岸まで行く場合にも、案内が充実しており快適に海岸まで向かうことができる。

パークアンドライドで渋滞なくスムーズにアクセス

車を利用する市民や観光客が快適に行き来できるように海岸近隣に駐車場が整備されているため、路上駐車はなく、歩行者や運転手にとっても安全な環境になっている。海岸近隣の駐車場が満車の場合も、海岸からやや離れた駐車場に車を止め、そこからタ

クシーやバスのほか新たな公共交通の移動手段を利用し、海岸に行くことができる。また、駐車場案内の看板や施設案内が設置されており、スムーズに海岸まで向かうことができる。

交通拠点である J R 安房鴨川駅には回遊性を高める工夫と快適な滞在を実現

駅前の観光案内所や駅構内には、「鴨川おすすめ周遊プラン」等の案内チラシが設置されており、観光客はこうしたモデルコースを参考に海岸周辺の観光を楽しむことができる。駅周辺には、市民や観光客など誰もが利用しやすいタクシーの相乗りサービスや

新たな交通移動手段が整備されており、快適な移動手段として利用されている。混雑時には、駅前に待合として利用可能な多目的スペースが整備され、タクシーや電車を待つことができる。

フロントエリア

～市内外から人が集い、遊び、くつろぎ、様々な機能を楽しむ多世代交流拠点～

海辺の新たなランドマークとなる多世代交流拠点

旧鴨川市市民会館跡地周辺には、屋上に津波避難機能を備えた多世代交流拠点施設があり、市民はもとより、市外からの来訪者で賑わっている。国道からのアクセスも容易となったこの場所を拠点に、市内の観光スポットに出かける方も多く見られる。市内最大の観光地である鴨川シーワールドとの相互乗り入れも実現しており、連日人の絶えない施設となっている。

多世代交流拠点施設は、ユニバーサルデザインを考慮して設計されており、視覚や聴覚に障がいのある方のための点字・音声案内やスタッフによるガイドも行われている。市内外、老若男女、障がいの有無を問わず、ここを訪れた方の誰もが、遊び、くつろぐことのできる温かく、明るい空間が醸成されている。

- エリアマネジメントセンター機能としてのインフォメーションカウンターがあり、施設案内以外に観光スポットやお土産等の情報提供を行い、観光客の窓口として機能している。

- 多目的ホールや会議室などの行政機能が備わり、地域の方が集う活動の場所となっている。
- カフェの併設された図書スペースでは、軽食を楽しみながら読書を楽しむ親子連れなどで賑わっている。
- 民間による温浴施設や飲食店の運営がなされるなど、年齢を問わず市民、観光客が集まる場所となっている。
- 「子どもの遊び場」として、ファミリー層向けの室内娯楽施設が運営されているほか、隣接の鴨川潮さい公園がリニューアルされ、年齢ごとに遊び場を分け、乳児期、幼児期、児童期等の各世代に対応した場所となっている。
- 屋上は、海の眺望を楽しむことができる展望デッキとなっている。また、大規模震災被災時の津波対策として、施設利用者や海辺の来訪者、近隣住民が安全に退避できる一次避難所としての機能を備えている。

デザイン、機能ともに充実した鴨川潮さい公園

屋外には建物に隣接して多彩な遊具やアスレチック設備を備えた鴨川潮さい公園があり、デザイン性・機能性に優れた大型遊具が人目を引く。晴れた日の子どもの遊び場としてだけでなく、運

動目的の大人の利用に対応した機能も備えている。波の音を聞き、潮風を浴びながら年代を問わず多くの方が集う世代を超えた交流の場となっている。



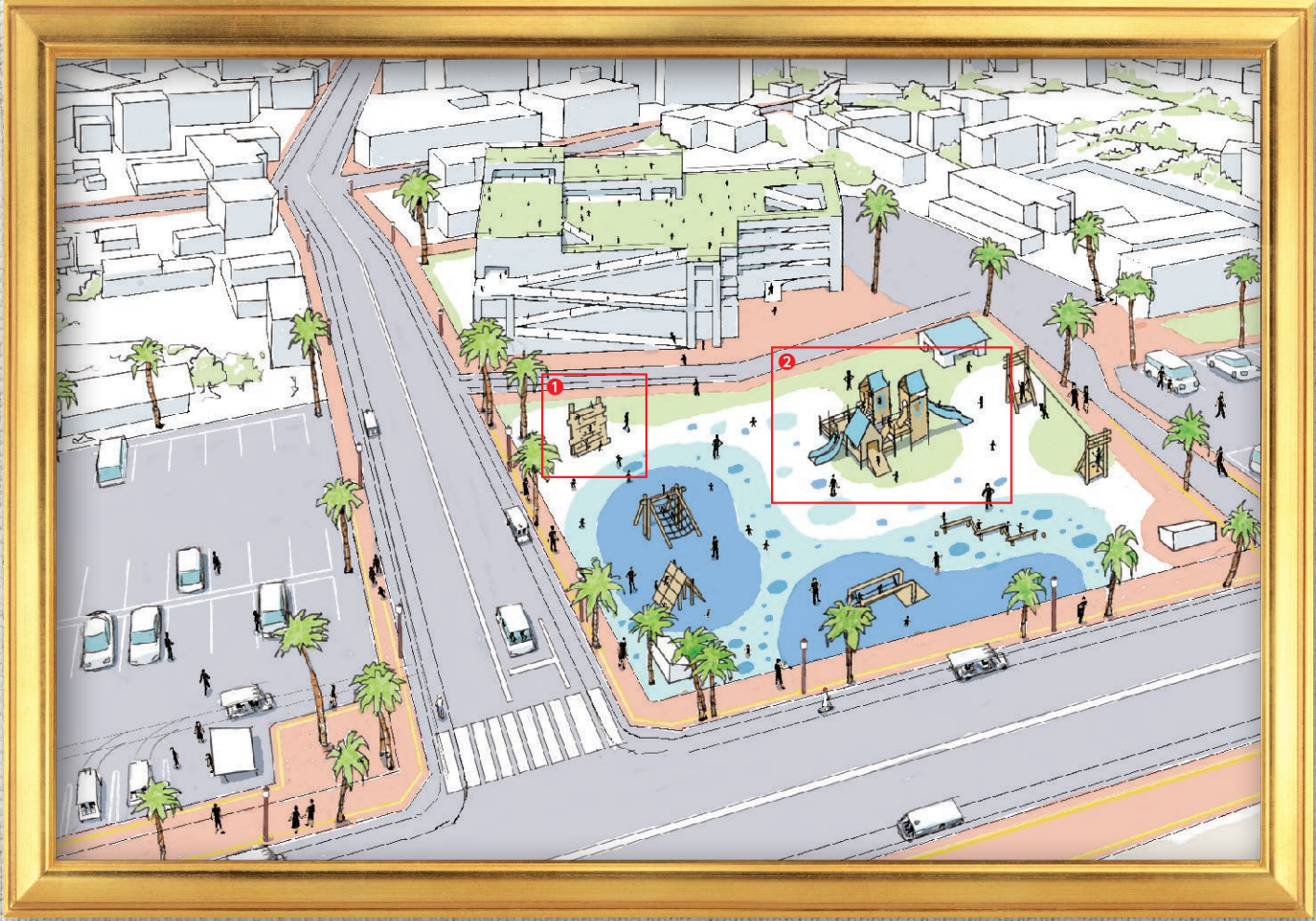
取組の方向性

エントランスロード

No.	方向性	取組
1	・観光地としての雰囲気(レジャーリゾート感)の醸成	・景観に配慮した道路環境整備
2	・駅から海までの道を快適に行き来できる環境整備	・新たな公共交通システムの検討
		・マイクロモビリティ(電動キックボード等)の貸出
		・レンタサイクルの運用
		・道路環境整備
		・道路清掃ボランティア
		・駐車場の整備(海岸周辺)
3	・駅周辺の環境整備	・駅前観光案内所から海辺エリアへの誘導
		・タクシーの利便性向上
		・駅待合所の充実化(多目的スペースの整備など)

フロントエリア

No.	方向性	取組		
1	・市内観光客を対象とした情報発信など観光の拠点となる場所	・エリアマネジメント機能の整備		
		・観光情報センターの整備		
		・観光コンシェルジュ機能の整備		
		・観光協会、観光プラットフォームなど関係団体の事務所機能		
2	・文化芸術活動をはじめ多くの市民が常に集まる場所	・多目的ホール・会議室等の整備		
		・その他行政機能の整備		
		3	・市民や観光客で賑わう場所 ・ファミリー層が楽しめる場所 ・鴨川ブランドの食や特産品が楽しめる場所	・屋内娯楽施設の整備
				・温浴施設の整備
				・カフェの併設された図書スペースの整備
・飲食・物販機能の整備				
・交流イベントの実施				
4	・海の魅力を感じられる場所	・展望・屋上テラスの整備		
		・新たなアクティビティの提供		
5	・安全・安心な施設	・津波の一次避難機能の整備		
6	・障がいを抱える方も利用しやすい場所	・ユニバーサルデザインを前提とした施設の整備		
7	・子どもの遊び場 ・多世代が交流する場所	・潮さい公園のリニューアル(デザイン性、機能性に優れた遊具やアスレチック)		
		・アーバンスポーツのできる場所の整備		
8	・来訪者のアクセス性の向上	・駐車場の整備		



将来像のイメージ図
エントランス
ゾーン
Entrance zone



① アスレチック(イメージ)



② アスレチック(イメージ)

2.2 プロムナードゾーン

目指す将来像

ビーチショップロード

～日本の渚百選と海を満喫できる空間～

カフェやリラクゼーション施設が充実した癒やしの空間

ビーチショップロードは、日本の渚百選に選定された前原横渚海岸に面していることから、ここでしか楽しむことができない絶景が広がっている。この景色や近くのアクティビティエリアを楽しむための施設や設備も整っている。

海岸線沿いに並んだレストランやカフェでは、海の絶景を前に食事をしたり、くつろいだりすることができる。市外からの観光客は勿論のこと、市民がふらっと立ち寄れる憩いの場となっている。

アクティビティエリアに関連した施設として、海水浴やサーフィン等を楽しんだ後に利用できる温水シャワーやジャグジー、マッサージ施設、アロマテラピー施設等が集約されたマリンステーションが整備されている。秋から初冬にかけての少し肌寒い時期でもマリンスポーツを楽しむ来客がある。遅くまで営業している施設もあり、ビーチショップロードを一日中楽しむことができる。

誰もが楽しめるウォーキングやランニングの快適空間

ビーチショップロードは、ランニングコースやウォーキングコースとしても利用されている。道の舗装や点字ブロック整備等により、様々な方が快適に利用できるようになっている。また、市民のボランティア活動の協力もあって、道路が定期的に清掃されているため、良好な景観が保たれている。さらに、運動のモチベーションとなるよう、コース100mごとに目印があり、歩いた

距離や走った距離を可視化できるようになっている。

コースの途中にストレッチ用の運動器具も設置されているため、ランニングやウォーキング以外の運動も可能で、日が暮れてからも利用しやすく、仕事終わりの会社員など地域の方の愛用の場所となっている。



アクティビティエリア

～海を活かしたイベントや施設が充実した鴨川の新たな娯楽空間～

海の魅力を満喫できるアクティビティやイベントが充実した空間

前原横渚海岸は、波の質の高さから多くのサーファーに愛される場所となっている。サーフィンを始めとしたマリナクティビティが盛んに行われ、ビギナー向け教室も開催されていることから、毎週末は市内外からの多くの来客で賑わっている。こうしたマリナクティビティには、障がいを抱える方も参加しており、

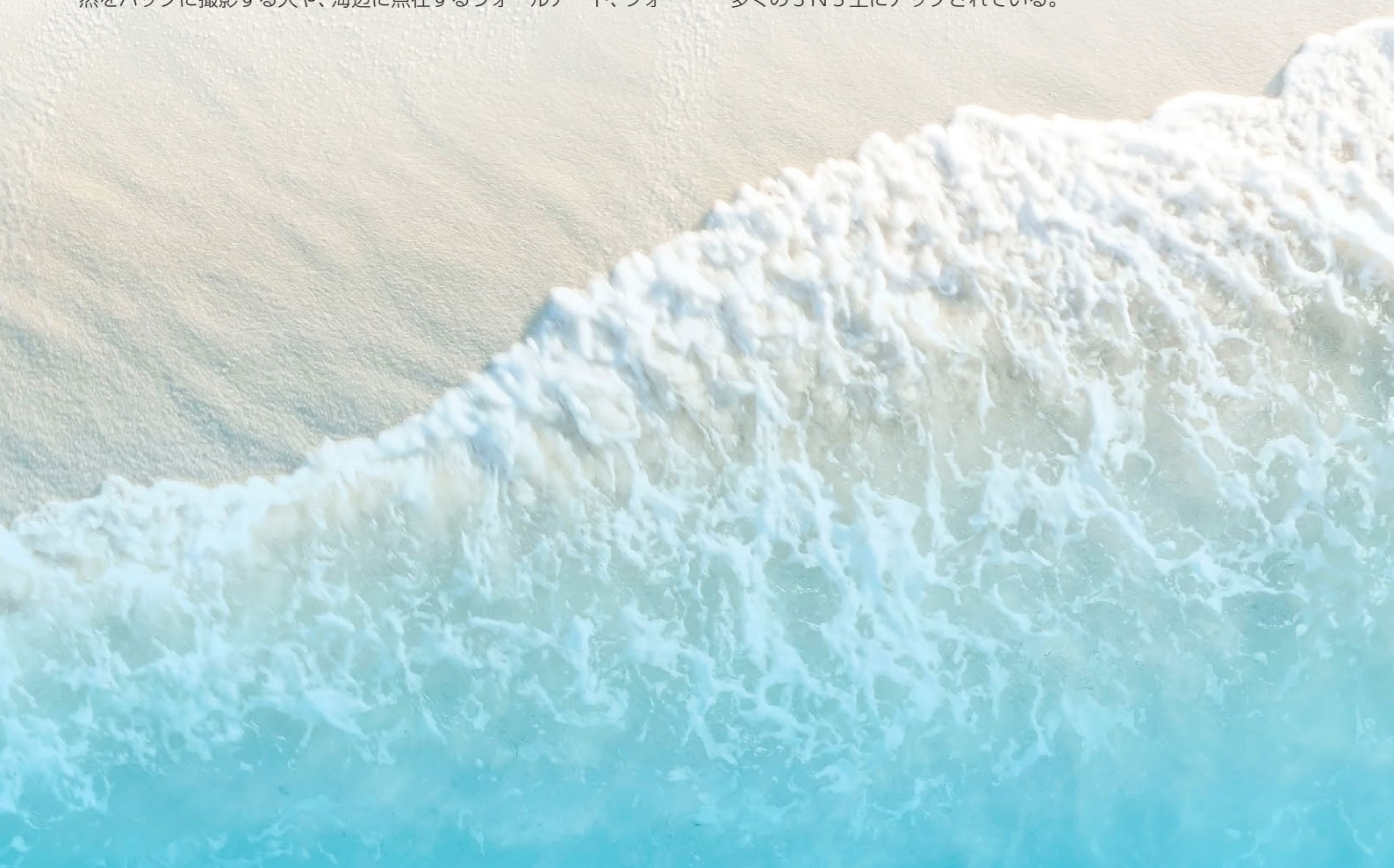
誰もが海の魅力を楽しむことのできる環境が整備されている。

また、ライブ、ビーチバレー等のイベントも定期的で開催されており、イベント開催時には、海岸線沿いが老若男女様々な人で埋め尽くされている。

SNS映えするスポットがあり連日多くの人で賑わう空間

海岸は、ビーチクリーン活動によりきれいな景観が保たれ、自然をバックに撮影する人や、海辺に点在するウォールアート、フォ

トジェニックなオブジェを撮影する人で賑わい、その写真が連日多くのSNS上にアップされている。





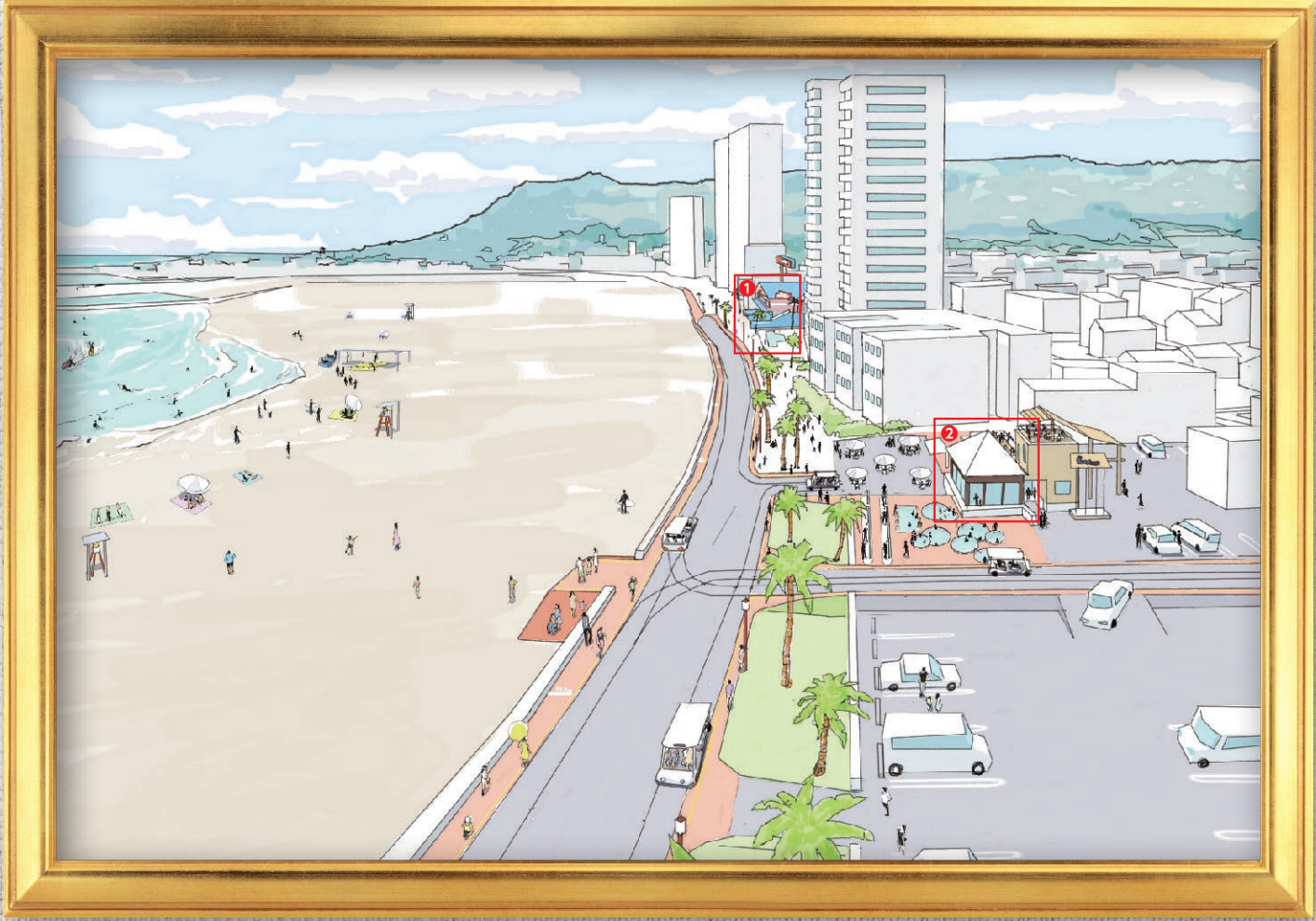
取組の方向性

ビーチショップロード

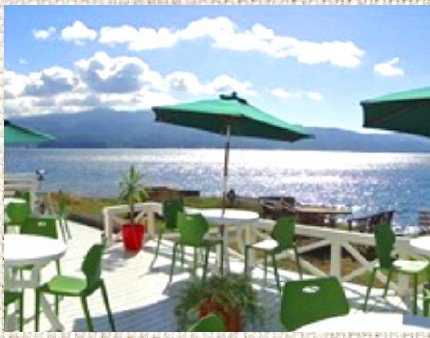
No.	方向性	取組
1	日本の渚百選である海の絶景を楽しむ場所	海の見える飲食施設
		ストリートファニーチャー（お洒落な休憩用ベンチなど）の設置
		シャワー・ジャグジー等を備えたマリンステーションの整備
2	外国人観光客が楽しめる観光スポット	多言語案内看板の設置
		外国人に対応した飲食店などの整備
3	新規出店による賑わいの創出	支援制度（企業立地奨励金など）の運用
		道路を活用したイベント・飲食店の進出
4	ランニングやウォーキングを快適に楽しむ場所	コース表示（100m毎など）の整備
		用途別の道路ペイント
		道路環境整備
		点字ブロックの整備
5	海の景観を維持	ボランティアによる道路清掃
		植栽管理
		トイレ等施設の適正管理
6	運動機会の創出	ストレッチ用器具の整備
		屋外フィットネススペースの整備
7	夕方・夜間での利用促進	街灯（フットライト等）の整備
8	他エリアからの快適なアクセスの確保	新たな公共交通システムの検討

アクティビティエリア

No.	方向性	取組
1	市内外から多くの人が集まる場所	サーフィンなどのマリンアクティビティ体験の提供
		ライブ、ビーチスポーツ大会の誘致
2	絶景の撮影などSNSで発信される場所	写真映えするオブジェの設置
		ウォールアートの整備
		ビーチクリーン活動の実施
3	障がいを抱える方でも海の魅力を楽しむユニバーサルビーチ	バリアフリー・ユニバーサルデザインに対応したトイレ、シャワー等施設の整備
		海岸へのアクセス環境の整備
		音声案内による海辺の散策機会の提供
		安全・安心で誰でも参加可能なアクティビティの提供
		砂浜用車椅子の貸出
案内看板の設置		



将来像のイメージ図
プロムナード
ゾーン
Promenade zone



① 海辺のカフェ(イメージ)



① 海辺のカフェ(イメージ)



② マリンステーション(イメージ)

2.3 パークゾーン

目指す将来像

～市民や観光客が本市の魅力を経験でき、地域の賑わいが生まれている交流拠点～

あらゆる人が何気ない時間をゆっくり過ごすことのできる空間

魅力体験広場には、市民や観光客が本市の魅力を経験することのできる交流拠点等として、賑わい創出を目指す施設が整備されている。

地域の方が長時間滞在できる「ベーカリー&カフェ」では、焼き立てのパンやこだわりのコーヒーを飲みながら、会話を楽しむ方で賑わっている。窓際の席では、波の音をBGMにコーヒーを飲

みながら読書をしている方もいて、ゆっくりとした時間が流れている。このお店には段差がなく、スロープや手すりが充実し、ユニバーサルデザインを意識した内装になっており、誰もが過ごしやすい環境が整備されている。また、営業時間も長く、夜になると仕事帰りの市民が一息つける場所として利用されている。

多様な世代が集う賑わい空間

エリア内には、ホワイトサンドで整備された大型の砂場があり、子どもたちの遊び場となっている。また、ビーチスポーツなどを楽しめる場所にもなっており、中高生の若い世代を始め多くの方に利用され、参加者同士の絆が深まっている。若い世代だけでなく、勤労世代など幅広い世代の交流が促進されている。

秋や冬には、安全面に配慮された焚火BARなどのイベントが開催されており、焚火を囲みながら談笑する姿もみられる。夏場だけでなく一年中観光客や地域の方が集まってくる場所となっている。

特産品も味わえる憩いの空間

旬の美味しい地域産品（農・海産物）が販売されており、市民はもちろん観光客のリピーター購入が多くなっている。また、BBQスペースが整備されており、新鮮な海鮮をその場で味わい海の魅力を堪能できることから、本市の主要観光スポットになっている。

そのほか、チャレンジショップとして地域事業者の出店や新たな観光商品（クラフトビール）の製造・販売がされており、地域経済が活性化している。

快適にアクセスできる拠点

市街地エリアは全体的に道幅が狭く、パークエリアへのアクセスに大きな支障を来していたが、新たなアクセスルートが整備

され、安全かつ快適にアクセスできるようになった。ここを拠点に、海辺やまちなか散策を楽しむ人で連日賑わっている。

SDGsとの連携

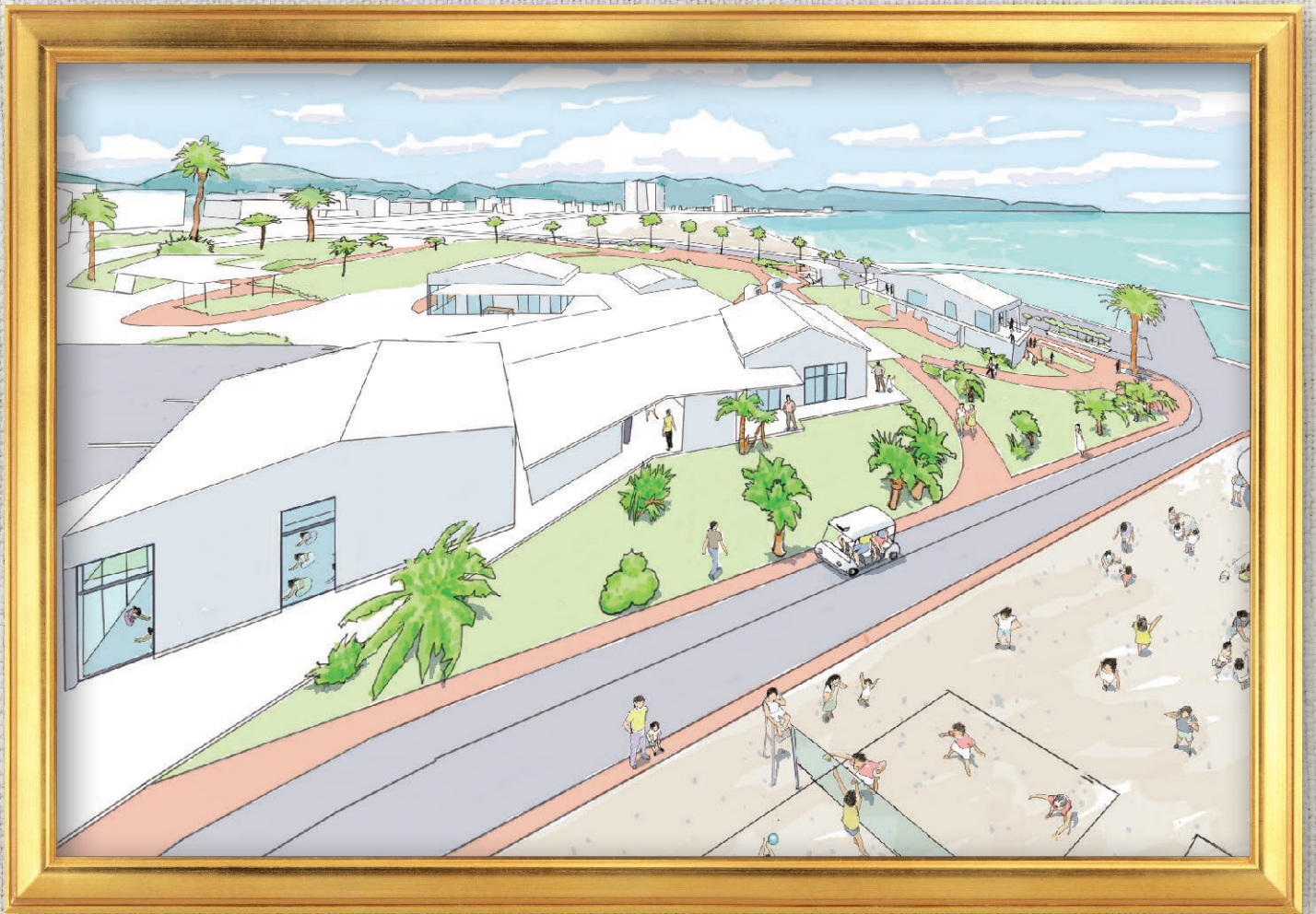


SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

取組の方向性

No.	方 向 性	取 組
1	<ul style="list-style-type: none"> ・市内外から多くの人が集まる賑わい創出の場所 ・市民がゆったりくつろぐ空間 ・地元の産品を楽しむ場所 	・カフェ・ベーカリー施設の整備
		・浜焼きB B Qの提供
		・クラフトビールの製造・販売
		・地域事業者の出店場所の整備
		・イベント広場の整備
2	<ul style="list-style-type: none"> ・海の魅力を体験できる場所 	・ヨガ・マッサージなどの体験イベントの実施
		・マリナクティビティの機会の提供
		・サーフィン用具の貸出
3	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセス性の確保 	・シャワールーム・脱衣所の整備
		・新たなアクセスルートの整備
4	<ul style="list-style-type: none"> ・来訪者への観光案内 	・観光情報コーナーの整備





将来像のイメージ図

パークゾーン

Perk zone



2023.4.27にオープンした「Kamogawa SEASIDE BASE」

2.4 後背市街地ゾーン

目指す将来像

～地元住民の芸術・文化・商業の新たな中心地～

世代に関係なく、文化・伝統・芸術が体験できる空間

市民の芸術作品を展示できるギャラリーのほか、芸術・文化に関する活動場所が整備されており、砂浜の貝殻や流木等を活用し

た作品を作るワークショップ等が開催されている。地元の幅広い世代の方や観光客も参加可能で、多世代交流も活発になっている。

空き店舗・空き家の活用による活気ある商店街

後背市街地ゾーンの商店街は、空き店舗にウォールアートが施されるなど趣ある街並みを形成しているほか、地元の食材を堪能できる飲食店の進出も見られる。本市の新たな観光名所として、週末には多くの観光客が訪れる場所となっている。

住居と店舗が同じ建物内にあり、活用が難しかった空き店舗は、リノベーションに対する公的支援などにより有効活用が進み、新規出店者も増え、中学生や高校生の集まるカフェやウィンドウショッピングが可能なお洒落な雑貨店が出店している。

カフェは、子どもたちが勉強を教え合いながら学習する場と

なっているほか、地元の高齢者の集いや休憩スペースとしても利用されている。勉強に疲れた時や宿題が終わった時に、海岸や周辺の公園で遊ぶことのできる環境も、このエリアの魅力の一つとなっている。

空き家の一部も移住体験施設へと整備され、観光をきっかけとして鴨川に魅力を感じた方を中心に利用されている。コロナ禍の影響でテレワークが推進され、働く場所が限定されなくなったため、ウェルネスビーチの魅力を感じた方が観光客から定住者になったケースも見受けられる。

演出照明による夜のまち歩きが楽しめる場所

夜になると街並みと調和した街灯や演出照明により、昼間とは違った雰囲気的空間となり、まち歩きや飲食店等を利用する地域

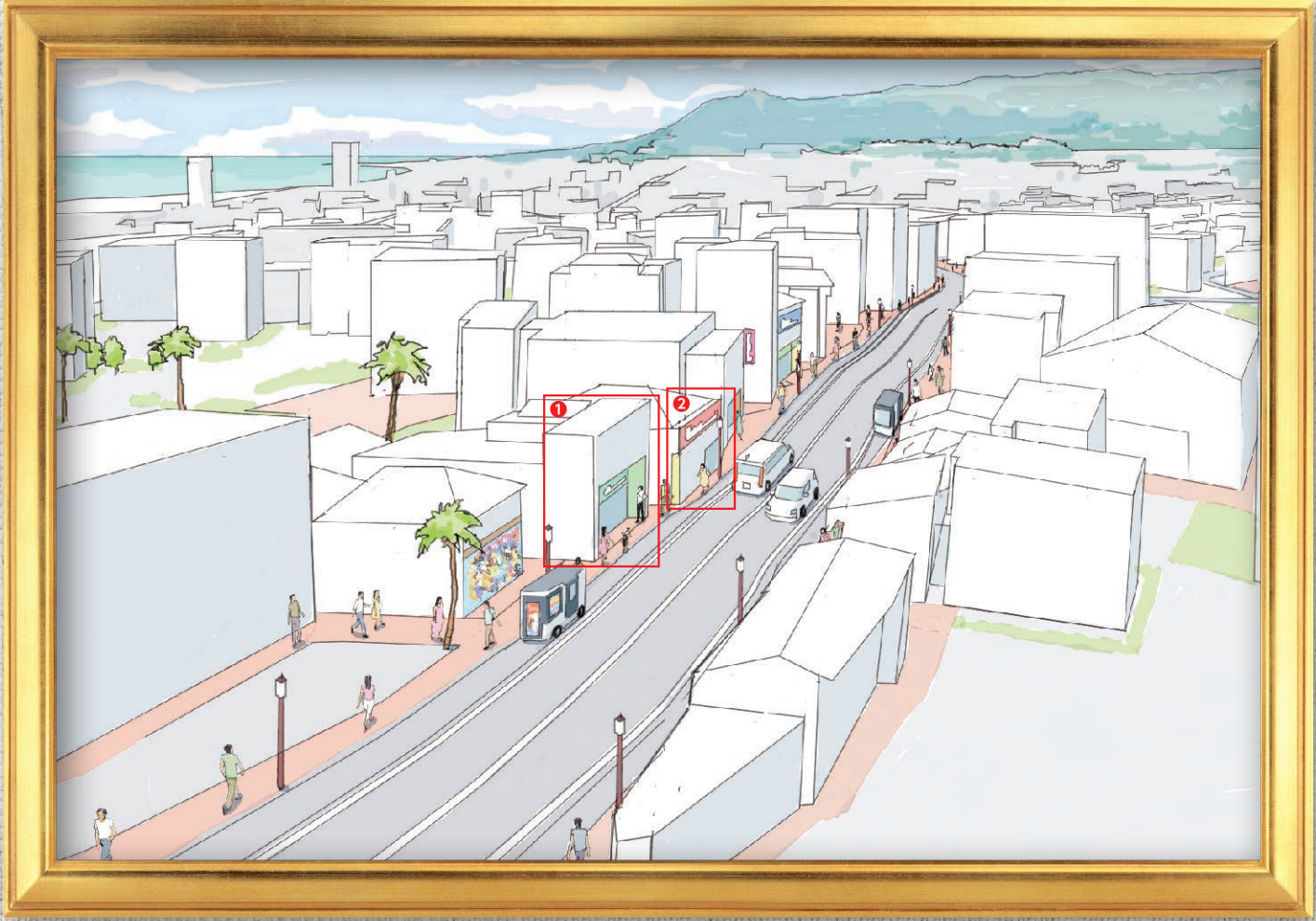
の方や観光客で賑わう活気ある場所となっている。



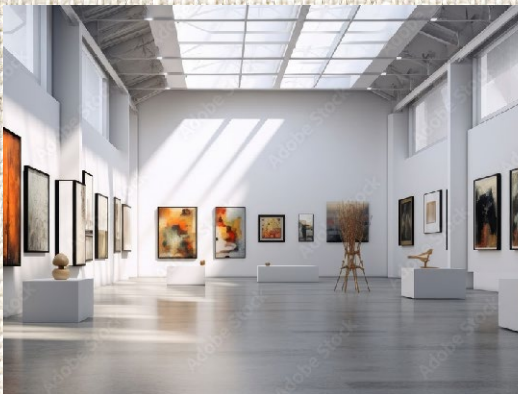
取組の方向性

No.	方向性	取組
1	<ul style="list-style-type: none"> ・市内外から多くの人が集まる賑わい創出の場所 ・芸術・文化によるまちづくり ・移住体験ができる場所 	・空き家・空き店舗活用のための支援制度
		・アートによる街並みの形成・まちづくりの推進
		・空き家・空き店舗を活用した飲食店・雑貨店の開業
		・移住体験施設の整備
		・各種ワークショップの開催
2	・若い世代が集う場所	・若い世代向けカフェなどの交流の場の整備
3	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセス性の確保 ・歩行者の安全確保 	・新たな公共交通システムの検討
		・マイクロモビリティの貸出
		・駐車場の整備
		・道路環境整備
		・演出照明などの街灯整備
4	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人観光客が楽しめる場所 	・伝統工芸などが体験できる文化施設の整備
		・外国人向け日本料理店の整備
		・多言語に対応した案内看板の設置





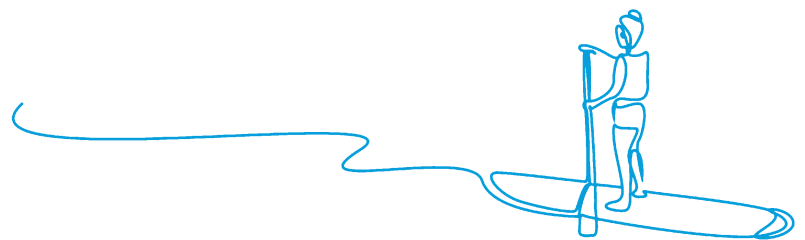
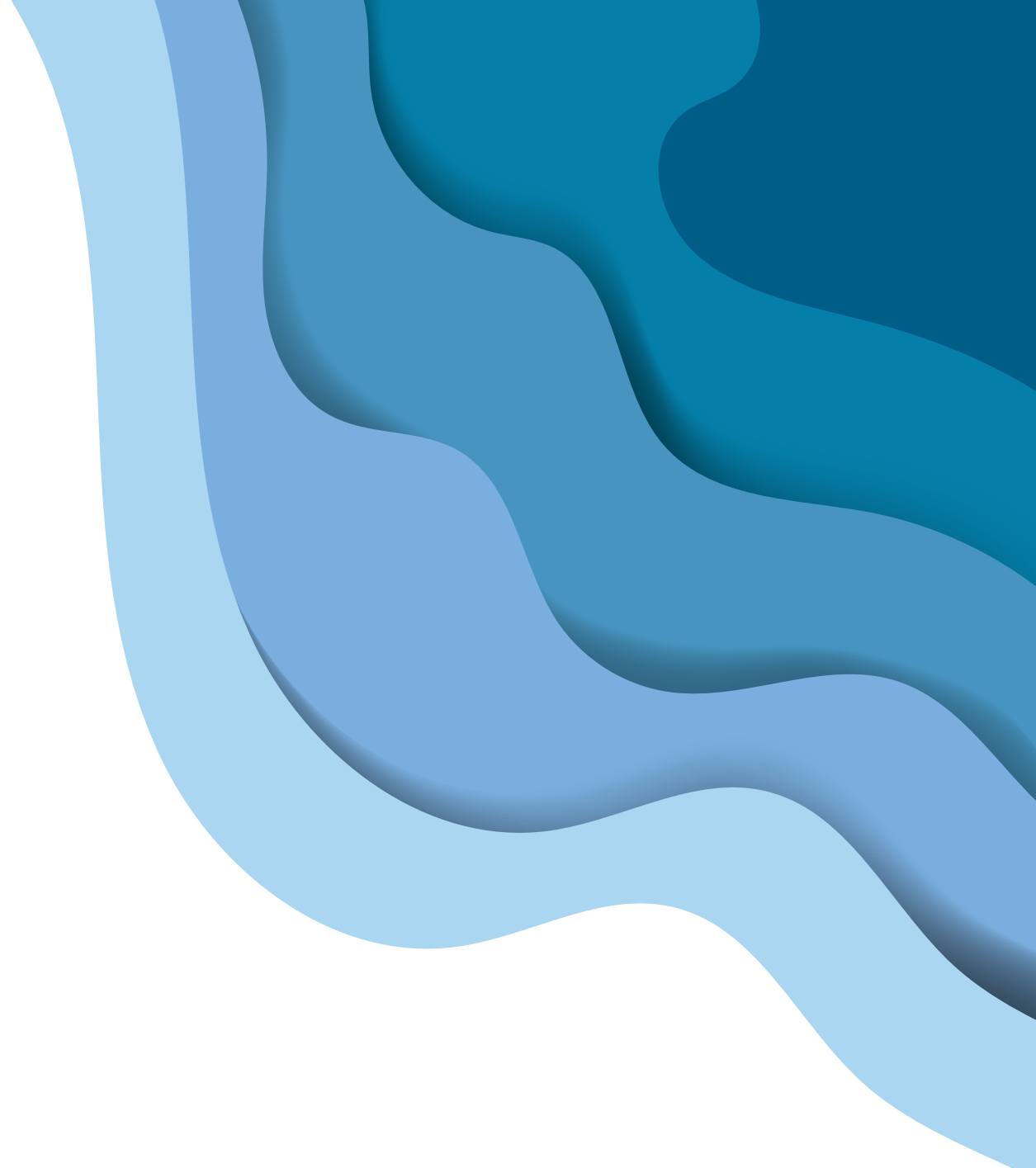
将来像のイメージ図
後背市街地
ゾーン
At the back city area zone



① ギャラリー(イメージ)



② カフェ(イメージ)



第4章

グランドデザイン実現に向けた取組

1. 基本的な考え方

第3章ではまちづくりの方向性について、各ゾーンごとに将来像を定め、その実現に向けた各種取組の方向性を示した。当該取組を着実に推進するためには市民、地域コミュニティ、民間事業者等との連携が不可欠である。

また、既存の資源を有効に活用するほか、民間活力の導入等により、経済的にも持続可能な方策を模索する必要がある。

さらに、ランドデザインは、海辺の魅力の磨き上げ等による賑わいの創出や地域の活力向上を図るとともに、市民の身体的・精神的・社会的健康と幸福に寄与するものであることを最重要視している。

これらを踏まえ、ランドデザインの実現に向けた基本的な考え方を以下の3点に集約する。

1.1 多様な主体の参画促進と連携

市民や地域コミュニティ、関係団体等によるまちづくりへの主体的な参画を促進するための環境整備に取り組む。

市民の参画に当たっては、本市の次代を担う若い世代の方の意見を聴取していくとともに、活動の担い手としても積極的な参画を促進する。

飲食店、カフェ、ショップ、マリナクティビティなどへの民間企業・団体の参入を促進するため、積極的な支援策を導入する。

各種施設の整備・運営に当たっては、民間の優れた経営ノウハウ・技術力・資金力を活かすことでより質の高いサービス提供が可能となるため、積極的に民間活力を導入する。



1.2 既存ストックの活用

限られた財源の中で、新たな機能を導入・整備する際には、選択と集中の考えのもと、これまで以上に効率的・効果的に各種取組を推進していく。

既存施設の機能を有効に活用していくことを優先的に検討し、追加的なコストをかけずに利用者の便益を増大させていくための

創意工夫に注力する。

また、対象地域だけでなく、市全体を見渡した公共施設及び行政機能のあり方を検討し、市民サービスの向上と行政機能の効率的な運営を図る。

1.3 Well-beingの実現

これまでのまちづくりでは、経済性・効率性などが重視され、ハード整備に重きを置く傾向にあった。ところが近年ではSDGsへの機運の高まりもあり、「誰一人取り残さない持続可能なまちづくり」の視点が重要視され、「機能面」に着目したまちづくりに移行しつつある。

持続可能なまちづくりとは、多様な背景にある一人ひとりを大切にすることであり、暮らしやすさ（過ごしやすさや快適さ）と心身の健康や幸福（Well-being）を実現することである。

本市においても「鴨川市第4次5か年計画」の基本理念に「『元

気』のまちづくり」を掲げ、「地域全体が活力にあふれ、住む人も訪れる人も元気になる、住んでみたい、ずっと住み続けたいまちづくりを進める」としており、「Well-being」の実現を包摂している。

「Well-being」は、鴨川の自然の中で太陽や風、大地を感じながら体を動かす時間を日常生活に取り入れ、身体の健康の維持や教育・社会学習機能を充実させることで精神の健康への寄与を目指すものである。この実現に当たっては、限られた地域資源を有効に活用するほか、新たな技術（IT / ICT / IoT）を活用したまちづくりにも取り組むこととする。



2. 推進体制の整備

2.1 取組の方向性

ランドデザイン実現のためには、まず、当該コンセプトを市民に広く周知し、理解を得ていくことが重要であるため、関係事業者や市民の意見との調整を図る取組が必要である。

市民、関係事業者等との合意形成が図られた取組から順次、施

設整備・運営の実施に向けた役割分担や資金調達の具体的手法について、実施計画を策定し、事業化を行う。

各取組ごとに進捗が異なるものであるが、いずれの取組についても同様のスキームにて推進する。

<取組の方向性スキーム>



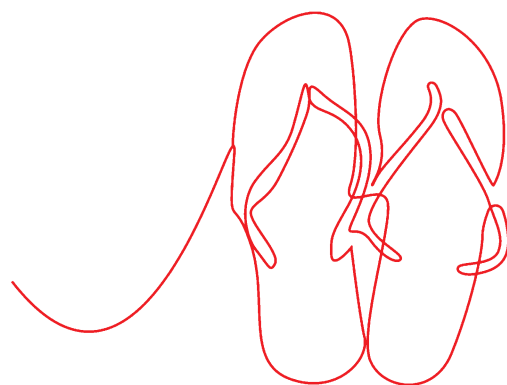
2.2 進捗管理

ランドデザインは規模の大きい長期的計画であるため、その実現には市民の理解、関係事業者の協力、各行政分野を越えた連携が必要であり、長い期間を要する。

実現に向けた取組については、順次着手できるものもあれば、事業着手に向けた調整に時間を要するものもあるため、適宜検証し、必要に応じた見直しを行うものとする。概ね10年を目途に、

将来予想の実現性やその実現に向けた取組状況を総括し、必要な見直しを行うこととする。

ただし、今後の社会情勢の大きな変化やまちづくりに関係する法令等の大幅な改正、鴨川市の最上位計画である総合計画やその他個別計画等が改訂される際には、この限りとせず、柔軟に見直しを行うものとする。



参考資料

(グランドデザイン策定に向けて実施した取組)

1. パーソントリップ調査

1.1 調査概要



調査の目的

鴨川シーワールドを観光地点とし本市観光動向を分析するため、同施設の来訪者を対象にアンケート調査を行う。

調査方法

鴨川シーワールドに調査員を配置し、記入依頼によりアンケート調査を実施

調査対象

鴨川シーワールド来訪者

実施期間

令和4年9月14日～令和4年9月15日


調査項目

年齢、発地(居住地)、旅行の目的、同行者構成、交通手段、宿泊の有無、宿泊地、来訪回数、来訪予定先など

取得サンプル数

355サンプル

1.2 調査票

鴨川市の観光に関する調査

鴨川市

問1 あなたの年齢をお答えください。(当てはまる番号1つに○)

1. 10歳未満	2. 10代	3. 20代	4. 30代	5. 40代	6. 50代
7. 60代	8. 70歳以上				

問2 あなたの居住地をお答えください。(最も当てはまる番号1つに○)

1. 鴨川市内	2. 千葉県内	3. その他(都道府県名)
---------	---------	----------------

問3 旅行の主な目的をお答えください。(最も当てはまる番号1つに○)

1. 観光・レクリエーション	2. 帰省・知人訪問	3. 出張・業務旅行	4. その他
----------------	------------	------------	--------

問4 旅行の宿泊の有無をお答えください。(最も当てはまる番号1つに○)

1. なし	2. 前日あり(宿泊地名)	3. 本日あり(宿泊地名)
-------	----------------	----------------

問5 旅行の同行者の種類をお答えください。(最も当てはまる番号1つに○)

1. 自分ひとり	2. 夫婦・パートナー	3. 家族・親族	4. 職場の同僚	5. 友人	6. その他
----------	-------------	----------	----------	-------	--------

問6 本日の交通手段をお答えください。(当てはまる番号すべてに○)

1. 鉄道	2. バス	3. タクシー	4. レンタカー	5. バイク・自転車	6. 自家用車
-------	-------	---------	----------	------------	---------

問7 鴨川シーワールドへの来訪回数をお答えください。(当てはまる番号1つに○)

1. はじめて	2. 2回～4回	3. 5回～9回	4. 10回以上
---------	----------	----------	----------

問8 鴨川シーワールドへ来る前に立ち寄った鴨川市内観光地の有無をお答えください。(当てはまる番号1つに○)

1. ない	2. ある (観光地名)
-------	---------------

問9 これから立ち寄る予定の鴨川市内観光地の有無をお答えください。(当てはまる番号1つに○)

1. ない	2. ある (観光地名)
-------	---------------

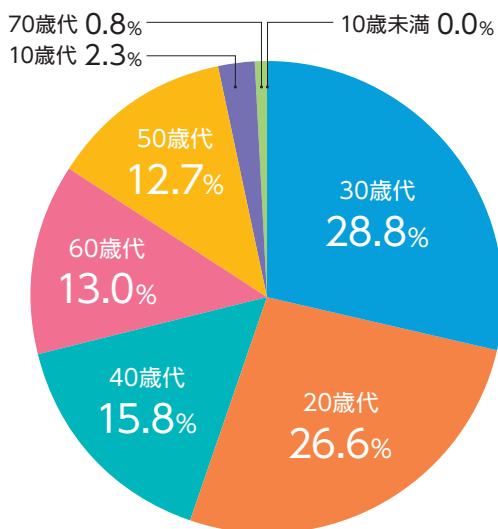
質問はこれで終わりです。ご協力くださりありがとうございました。

1.3 調査結果

問1 あなたの年齢を教えてください。

回答者の年齢区分では、「30歳代」が28.8%、「20歳代」が26.6%と回答者全体の半数以上を占めている。

図1) 年齢について



問2 あなたの居住地を教えてください。

「その他(千葉県外)」が62.0%と最も高く、平日にもかかわらず県外からの来訪が多いことが判明した。なお、「その他」の内訳は、「東京都」が33.6%と最も高く、次いで「神奈川県」27.3%、「埼玉県」18.2%となっている。

図2.1) 居住地について

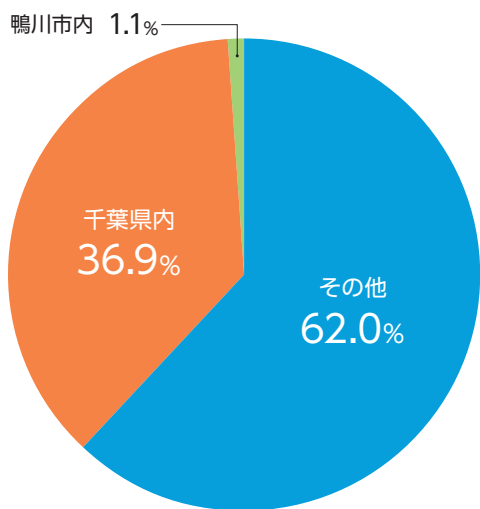
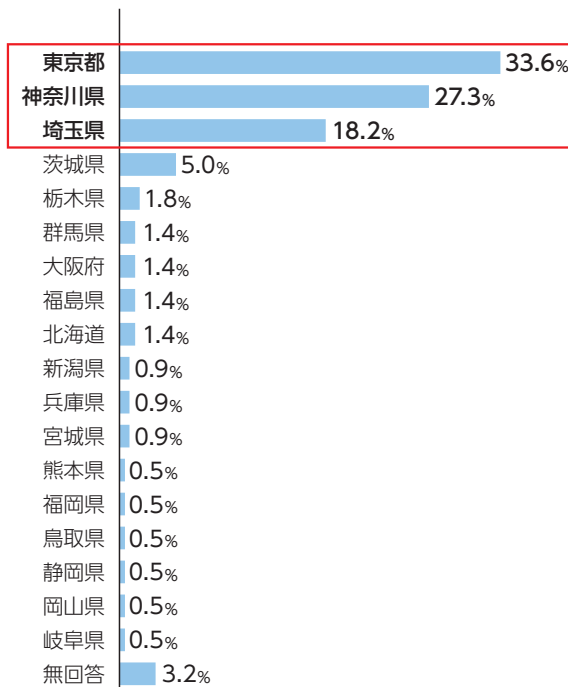


図2.2) 居住地その他内訳

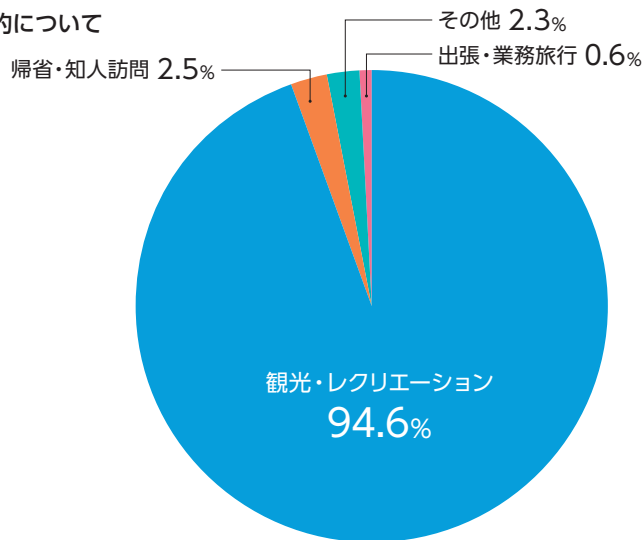


居住地	人数
東京都	74
神奈川県	60
埼玉県	40
茨城県	11
栃木県	4
群馬県	3
大阪府	3
福島県	3
北海道	3
新潟県	2
兵庫県	2
宮城県	2
熊本県	1
福岡県	1
鳥取県	1
静岡県	1
岡山県	1
岐阜県	1
無回答	7
合計	220

問3 旅行の目的を教えてください。

「観光・レクリエーション」が94.6%と回答の大半を占める結果となっており、年齢別に特徴的な傾向は見られない。

図3) 旅行の目的について



問4 宿泊の有無を教えてください。

「なし」が46.7%、ついで「前日あり」が34.3%、「本日あり」19.0%となっており、「宿泊あり」と回答した人が半数以上を占めている。「居住地」と「宿泊の有無」の関係については、居住地が当該観光地点から遠方になるほど、宿泊を伴う傾向が見て取れる。また、宿泊はいずれの居住地でも「前日あり」と回答した人が多い傾向にある。

図4.1) 宿泊の有無について

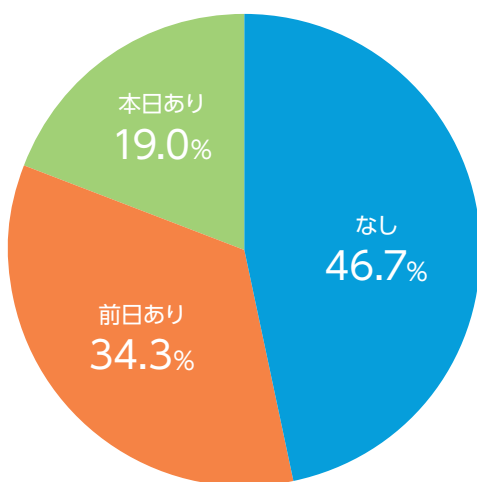
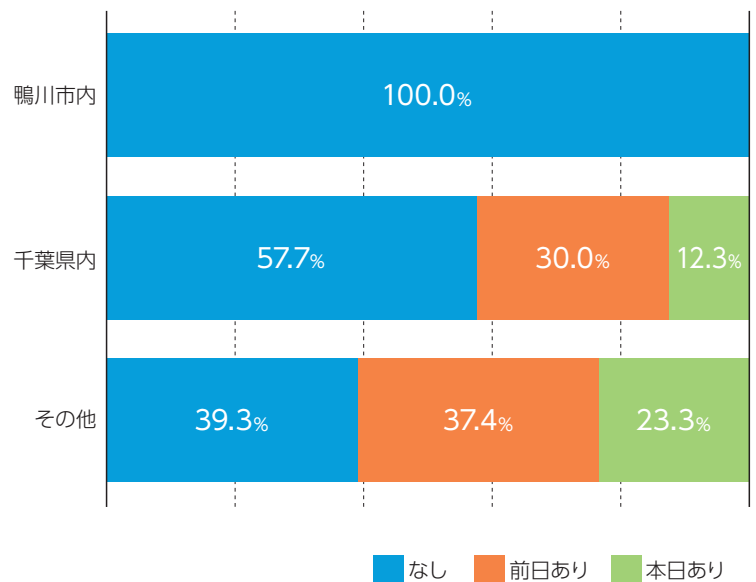


図4.2) 宿泊の有無と居住地の関係



「前日あり」と回答した人の宿泊地の内訳は、「鴨川市」が55.7%と半数以上を占めている。ついで、「館山市」7.2%、「白浜町」「勝浦市」6.2%となっている。

図4.1) 宿泊の有無について (再掲)

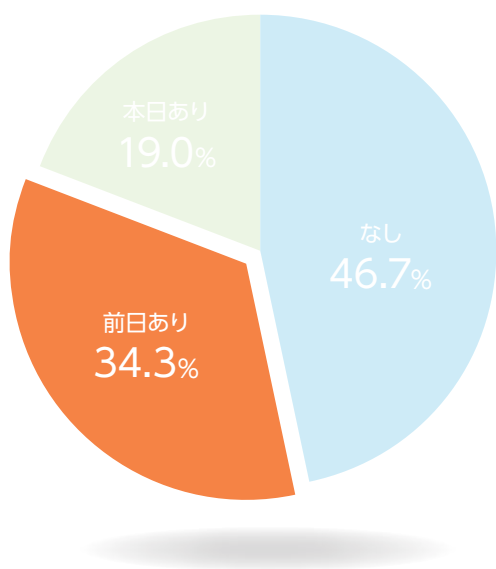
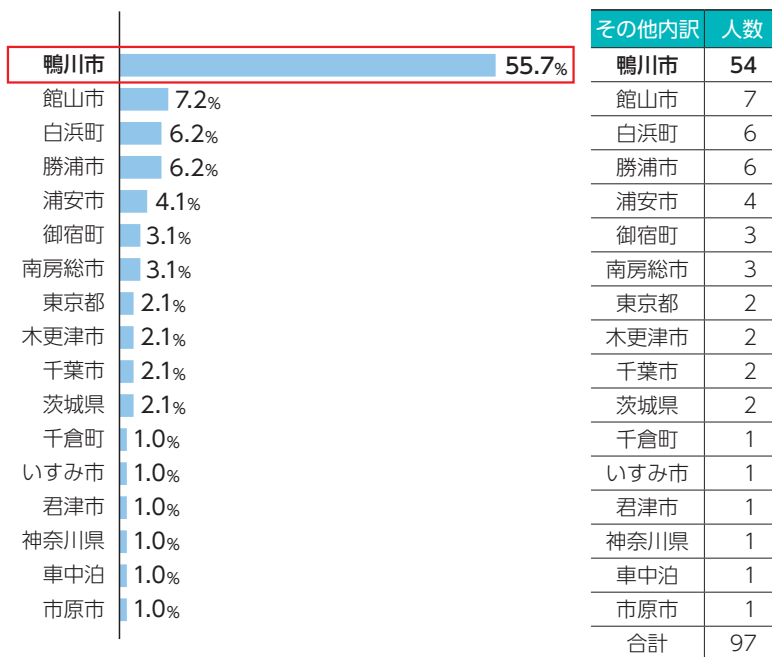


図4.3) 「前日あり」の宿泊地内訳



「本日あり」と回答した人の宿泊地の内訳は、「鴨川市」が66.0%と半数以上を占めている。ついで、「館山市」「白浜町」「木更津市」6.0%となっており、「前日あり」と同様の傾向が見て取れる。

図4.1) 宿泊の有無について (再掲)

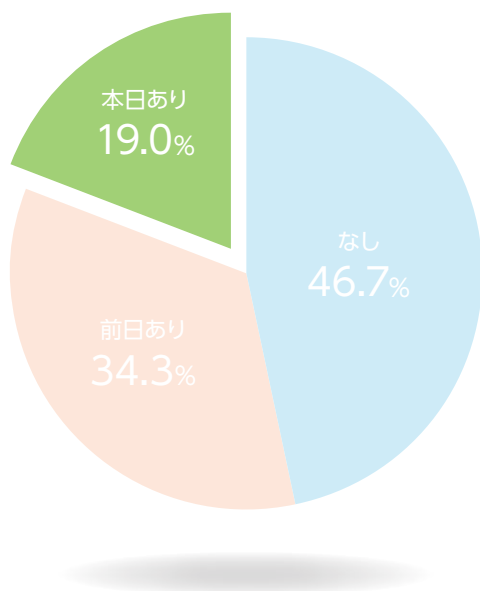
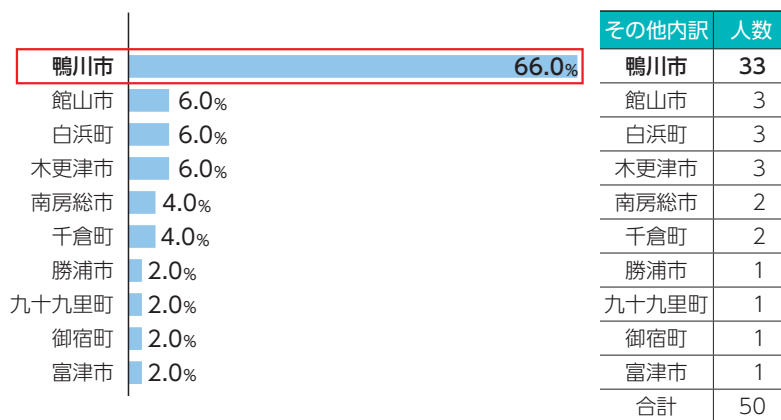


図4.4) 「本日あり」の宿泊地内訳



問5 同行者を教えてください。

同行者については「家族・親族」が48.6%と回答のほぼ半数を占めており、ついで、「夫婦・パートナー」33.3%、「友人」10.7%となっている。年齢別の同行者区分では、「30歳代」「40歳代」及び「70歳以上」では「家族・親族」が多い傾向が見られ、「10歳代」「20歳代」と「50歳代」「60歳代」では「夫婦・パートナー」が多くなっている。

図5.1) 同行者について

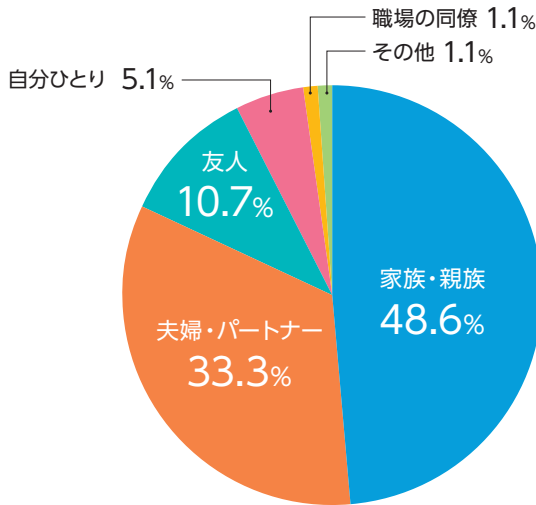
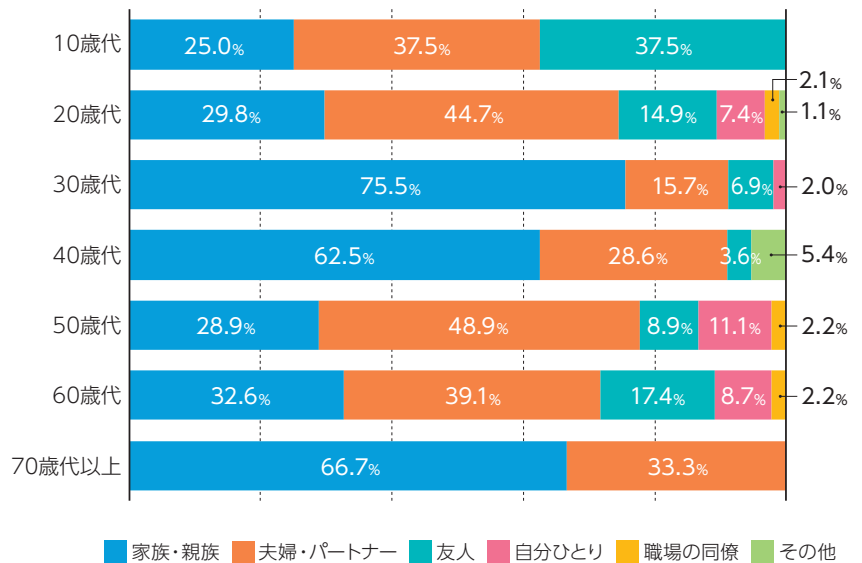


図5.2) 年齢別同行者区分



問6 交通手段を教えてください。

当該観光地点までの交通手段は「自家用車」が74.9%と最も高く、ついで「バス」「レンタカー」8.5%となっている。年齢別では、「10歳代」と「70歳以上」では他の年齢に比べ、「鉄道」と回答した人の割合が高い傾向にある。このことは、自家用車や自動車運転免許証の保有状況に関係しているものと推察され、安房鴨川駅からの無料送迎バスによるアクセスの良さから鉄道利用が伸びているものと思われる。

図6.1) 交通手段について

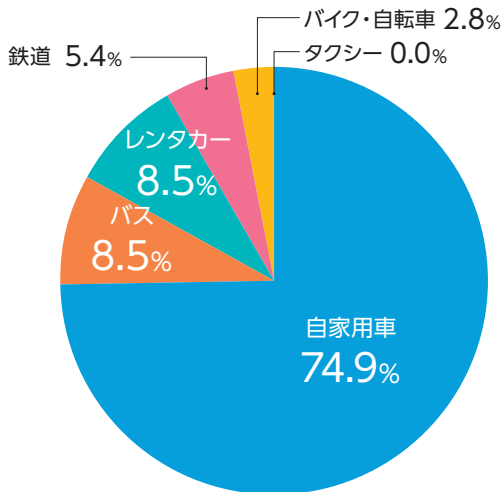
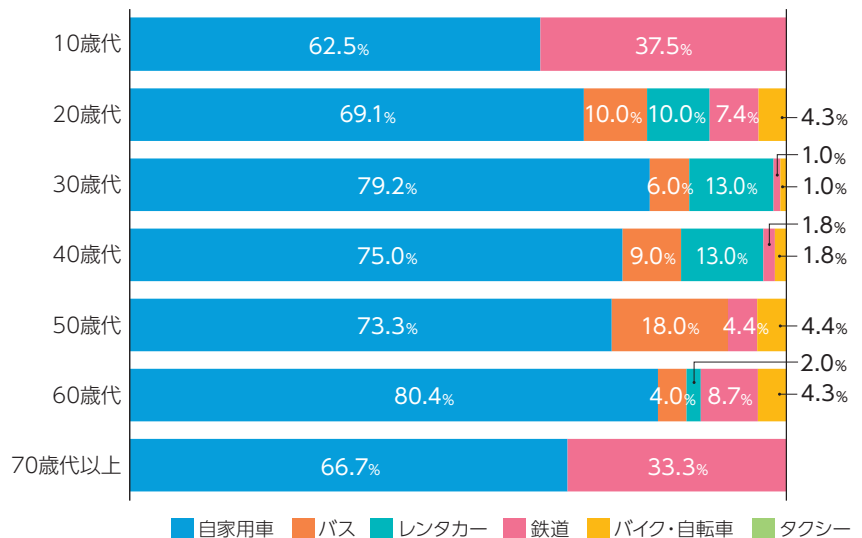


図6.2) 年代別交通手段



問7 鴨川シーワールドへの来訪回数を教えてください。

「はじめて」が4割、1回以上のリピーターが全体の6割を占める結果となった。

年齢別の来訪回数は、年齢が高くなるにつれ来訪回数が多くなる傾向にあり、当該施設は若者世代だけでなく幅広い世代に楽しんでもらえていることが伺える。

また、居住地別の来訪回数は、「その他（千葉県外）」は「はじめて」が51.8%と半数程度を占めているものの、残り半数はリピーターであることが見て取れる。「千葉県内」についても8割近くがリピーターであり、県内外を問わず「何度でも足を運びたい施設」であることが伺える。

図7.1) 来訪回数について

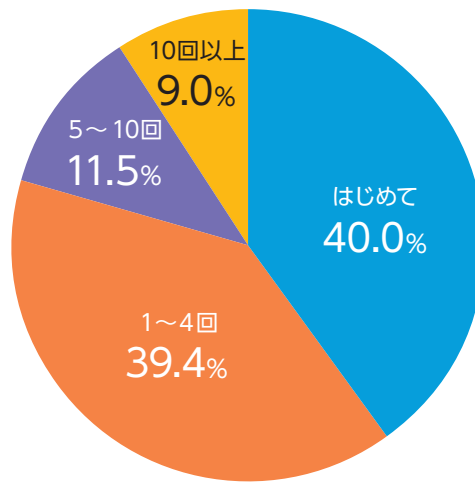


図7.2) 年齢別来訪回数

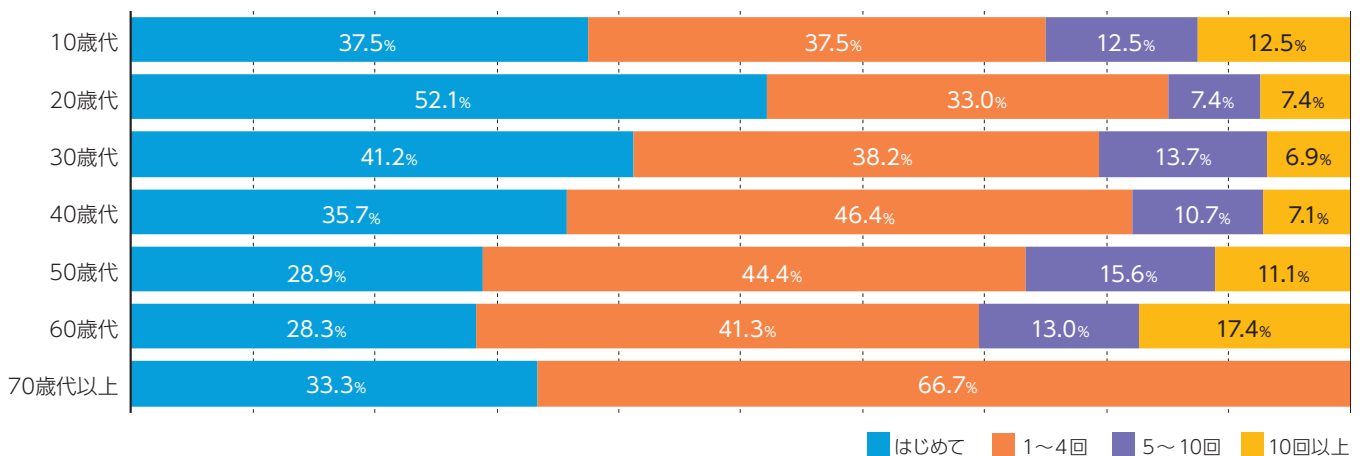
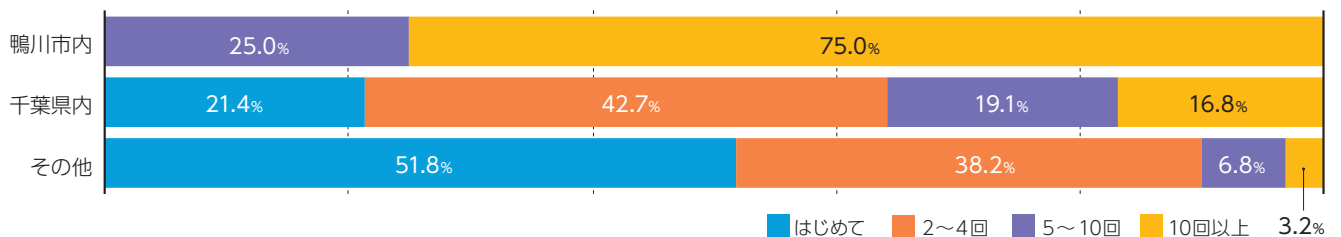


図7.3) 居住地別来訪回数



問8 立ち寄った観光地の有無を教えてください。

鴨川シーワールド来訪前に立ち寄った観光地の有無については「ない」が87.6%と、回答者の多くは当該施設を目的地としていることが伺える。「ある」と回答した44人のうち、42人から具体的な観光地名の回答が得られ、もっとも回答の多かったのは「マザー牧場」(富津市)であった(バラつきあり)。

鴨川市の立ち寄り先として最も多く回答が寄せられた観光地等は「藤よし」であった。

図8.1) 立ち寄った観光地の有無

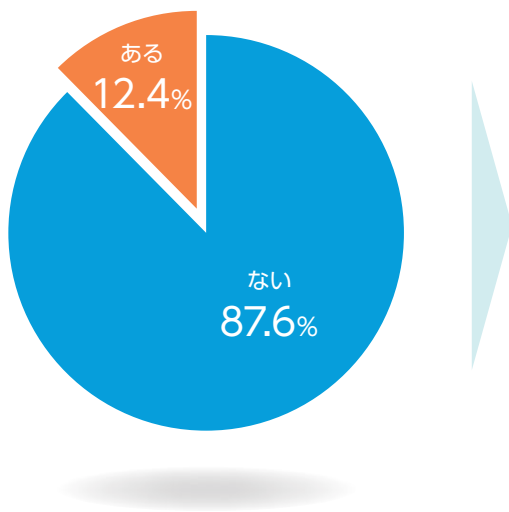


表8.2) 立ち寄った観光地ランキング

No.	観光地	回答数
1	マザー牧場 (富津市)	8
2	鋸山 (富津市)	5
3	藤よし (鴨川市)	3

(総回答数42)

その他、回答のあった鴨川市の観光地

- ✓ 安房鴨川駅 (電車の車両を見学)
- ✓ 潮騒市場
- ✓ 誕生寺
- ✓ 大山千枚田

問9 立ち寄る予定の観光地の有無を教えてください。

鴨川シーワールド来訪後に立ち寄る予定の観光地の有無については「ない」が82.7%と、回答者の多くは当該施設を最終の目的地とし、直帰を予定していることが伺える。なお、「ある」と回答した61人のうち、45人から具体的な観光地名の回答が得られ、もっとも回答の多かったのは「道の駅」(不特定)であった(お土産物等を購入目的としているものと推察される)。

鴨川市の立ち寄り先として回答が寄せられた観光地等は「藤よし」、「鴨川市場(潮騒市場)」であった。

図9.1) 立ち寄る予定の観光地の有無

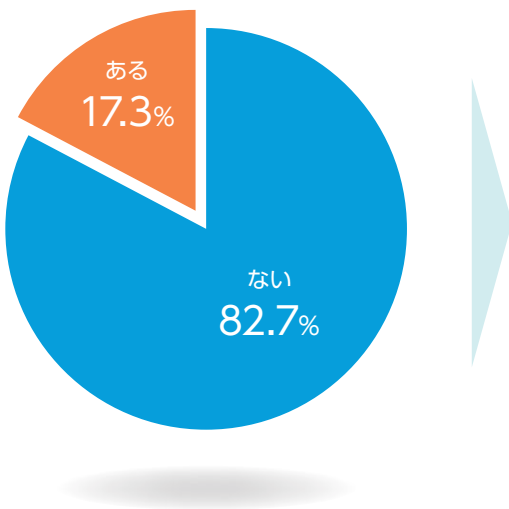


表9.2) 立ち寄る予定の観光地ランキング

No.	観光地	回答数
1	道の駅 (不特定)	12
2	マザー牧場 (富津市)	7
3	はちみつ工房 (君津市)	2

(総回答数45)

その他、回答のあった鴨川市の観光地

- ✓ 藤よし
- ✓ 鴨川市場 (潮騒市場)

2. 高校生ワークショップ

1.1 目的

若い世代が考える鴨川市の強み弱み、今後求められるもの(ニーズ)について意見を聴取し、「鴨川市海辺のグランドデザイン」の

コンセプト設計の基礎資料とするため、市内高等学校に通う生徒を対象にワークショップを開催する。

1.2 対象及び日時



鴨川令徳高等学校

参加者：2学年及び3学年の生徒7名(生徒会役員)

日時：令和4年9月26日(月) 16:00～17:10



千葉県立長狭高等学校

参加者：2学年及び3学年の生徒10名

日時：令和4年10月4日(火) 16:00～17:10

1.3 意見集約 (対象地域で実現できたら良いと思うこと)

想定する属性	意見
<p>子ども (未就学児)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● インフラに関する意見 <ul style="list-style-type: none"> • 海の近くに公園があるがトイレの数が少ない。 • トイレに仕切りもないため、プライベート環境がない。親が子どものおむつを替えることができる場所があれば良い。(多目的トイレ等) ● 休憩スペースに関する意見 <ul style="list-style-type: none"> • 海岸沿いで花火大会があったが、座る場所がないことが不便だった。 • 段差が高く、小さい子どもでは上がることができないため、段差をなくした方がよいと思う。 • 日除けがあると良い。
<p>小学生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 遊び場(運動、飲食、娯楽含む。)に関する意見 <ul style="list-style-type: none"> • 海側に駄菓子屋などの行きやすい場所があれば、子どもが集まりやすい。 • 海岸近くの公園に子ども用アスレチックがあれば良い。 • 海を利用して、小さい子どもでも魚を釣ることのできる釣り堀があれば良い。 • 子どもはお菓子が好きなので、気軽に立ち寄ることができる駄菓子屋があれば子どもが集まると思う。 ● インフラに関する意見 <ul style="list-style-type: none"> • 海沿いにゴミ箱がなく、ゴミが散逸していることが多いため、ゴミ箱を設置した方がよいと思う。
<p>中学生</p>	<p style="text-align: center;">-</p>
<p>高校生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 遊び場(運動、飲食、娯楽含む。)に関する意見 <ul style="list-style-type: none"> • 現在、前原横渚海岸はB B Q禁止となっているが、一角を区切ってB B Qスペースを作れば、人が来ると思う。 • カフェなどの暇つぶしができる場所がないため、目的なく集まることができる場所が欲しい。 • 飲食店が少ないため、デリバリーできるような飲食店が欲しい。 • ランニングで海に行く。海岸沿いは草や砂等があり、走りにくいので、ランニングコースを整備してほしい。 ● インフラに関する意見 <ul style="list-style-type: none"> • 駐輪スペースが分かりにくく、通行の邪魔になるような場所に駐輪されている。 • 海岸前に車が駐車されているため、海岸に行きにくい。 • 脱衣所がないため、車の近くで脱衣しているサーファーが多い。 ● 学習施設に関する意見 <ul style="list-style-type: none"> • 最寄りの学習塾が館山になるため、塾などの学習施設が欲しい。 ● 景観に関する意見 <ul style="list-style-type: none"> • SNSでバズるような映えスポットがあれば集客できると思う。 • よく海岸沿いを散歩するが、道に砂がたまっていたり草が生い茂っていたりするので、管理した方がよい。

想定する属性	意見
大学生	<ul style="list-style-type: none"> ● 遊び場 (運動、飲食、娯楽含む。)に関する意見 <ul style="list-style-type: none"> サーファーはスケボーをやっていることが多いため、海岸近くにスケボーができる環境を作ればリピートに繋がると思う。 長期休みを利用して鴨川に来訪してもらえるように長期滞在施設を作ってはどうか。
社会人 (勤労世代)	<ul style="list-style-type: none"> ● 遊び場 (運動、飲食、娯楽含む。)に関する意見 <ul style="list-style-type: none"> プロのビーチバレーやビーチサッカーの試合を見ることができる環境があると良い。 砂浜でお酒が飲めるような環境があれば良い。 日比谷公園音楽堂のようにカラオケ大会やライブなどが企画できるイベント会場があれば良い。 観光だけでなく文化施設という機能面も備えていただきたい。 閉店時間が早いお店が多いため、遅い時間まで営業している商業施設があればと思う。 平日だと海に行けるのは夜11時になってしまうため夜でも楽しめるアクティビティや街灯があれば良い。 海辺で走る環境整備。100mごとにストレッチ器具を置くなど歩く目標作り。 ● 休憩スペースに関する意見 <ul style="list-style-type: none"> ふらっと立ち寄ることができるような公園。公園内に日陰となるような場所があれば良い。 ● 景観に関する意見 <ul style="list-style-type: none"> 写真が撮れる場所 海や山の自然環境を一望できるような展望台があれば良い。 「鴨川」のサイン版のようなものを設置して、そこで記念写真を撮れるようにできると良い。 ● 行政機能に関する意見 <ul style="list-style-type: none"> 行政機能ができれば良いと考える。
子育て世代	<ul style="list-style-type: none"> ● 遊び場 (運動、飲食、娯楽含む。)に関する意見 <ul style="list-style-type: none"> 小さい子どもがいても食事できる環境があれば良い。 海辺のこども図書館。海岸に長い時間いてもらえるような環境を整備する。 旧市民会館跡地を1階カフェ、2階図書館に改装できれば良いと思う。 子ども向けにバナナボート、ジェットスキー、宝探しなどのイベントを開催すれば、子どもが行きたがって親も一緒に来ると思う。 子どもが遊べる場所もなく、仮に子どもが遊べる場所があったとしても、子どもが遊んでいる間に親が休める場所はないと考える。 ● インフラに関する意見 <ul style="list-style-type: none"> 夜は海岸周辺の道も暗いため、街灯が欲しい。

想定する属性	意見
家族	<ul style="list-style-type: none"> ● インフラに関する意見 <ul style="list-style-type: none"> ・道が狭いため行きにくい。道幅が2～3倍になったら景観も変わると思う。
高齢者	<ul style="list-style-type: none"> ● 遊び場(運動、飲食、娯楽含む。)に関する意見 <ul style="list-style-type: none"> ・健康を意識している高齢者が多いため、ゲートボールなど気軽に体を動かすことができるような施設があれば良い。 ・高齢者向けの簡単な運動できる場所があれば良い。 ● インフラに関する意見 <ul style="list-style-type: none"> ・バスの本数が少ないため行きにくい。海岸近くの商店街は歩道が狭いため、道を広くすべき。 ・夜は暗いため、歩きやすいように街灯を増やす。 ● 休憩スペースに関する意見 <ul style="list-style-type: none"> ・公園もあるが、座れる場所が少ないので休憩できる場所があると良い。
障害のある方	<ul style="list-style-type: none"> ● インフラに関する意見 <ul style="list-style-type: none"> ・海を見て楽しんで欲しいため、栈橋をつくり、車椅子で海の近くに行くことができる環境があれば良い。ユニバーサルデザインを意識できれば良いと思う。 ・道を広くすることで不自由さをなくし、動きやすい環境を整備する。多目的トイレなど ・点字案内があると良い。 ・安心して遊べる環境がないため、ユニバーサルデザインを意識した場所があれば良い。
観光客 (外国人含む)	<ul style="list-style-type: none"> ● 遊び場(運動、飲食、娯楽含む。)に関する意見 <ul style="list-style-type: none"> ・鴨川だと親が子どもと一緒にサーフィンに来た場合、子どもが楽しめる環境がない。鎌倉なら鎌倉市街を散策できる。 ・サーファーが帰りに立ち寄ることができるスーパー銭湯のリラックスできる施設(ヨガ、マッサージ、アロマテラピーなど)があれば良い。 ・冬に来る人が少ない。サーファーとアーバンスポーツ(スケボー等)する人の属性は同様と考えられるので、アーバンスポーツができる場所を提供する。(リピーターに繋がる。) ・令徳高校は留学生も多いことから、留学生の親向けや外国人観光客のために日本料理を提供するお店があっても良いと思う。

3. 関係団体との意見交換会

3.1 目的

グラントデザイン策定に当たり、商工業、観光業を始めとした関係団体の意見を聴取し、コンセプト設計の基礎資料とするため、

観光を始めとする関係団体との意見交換会を実施する。

3.2 開催概要

日時及び場所

日時：令和4年11月10日(木) 場所：鴨川市役所4階 会議室

参加者

No.	団体名	役職	氏名
1	鴨川観光プラットフォーム株式会社	代表取締役	鈴木 健史
2	一般社団法人 鴨川市観光協会	会長	久根崎 達郎
3	一般社団法人 鴨川市観光協会	副会長	吉田 孝男
4	一般社団法人 鴨川市観光協会	副会長	藤巻 武仁
5	一般社団法人 鴨川市観光協会	理事	高梨 貴央
6	鴨川市商工会	会長	島田 誠一
7	鴨川市商工会	理事	本多 信介
8	鴨川市漁業協同組合	総務部長	松井 政人
9	鴨川温泉旅館業協同組合	理事長	吉村 敦広
10	鴨川ライフセービングクラブ	会長	水谷 好伸
11	鴨川シーワールド	総支配人	藤原 悟作
12	一般社団法人 鴨川市青年会議所	理事長	須金 幹晴
13	鴨川ライオンズクラブ若獅子支部	会長	御園 康史
14	鴨川サーフィンクラブ	会長	川井 幹雄
15	千葉県議会議員		川名 康介

3.3 意見交換会概要

- 対象地域に魅力的な建物を作っても、経済的に支える仕組みを構築しないと長続きしないのではないか。
- ハード面にはあまり予算をかけず、ソフト面の施策に注力ということだが、お金をかけるべきところはかけないと魅力向上にはつながらないのではないか。
- フィッシャリーナからシーワールドまでの海岸線の道路で一つの流れを作るという話が以前の計画では出ていた。その文脈で、海からホテルにアクセスできるような導線づくりといったことも議論されていた。こうした観点から、観光庁の事業である「地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業」の補助金の活用を来年度検討してはどうか。
- 鴨川市に住んでいる既存事業者を意識した計画策定をしてほし

い。既存店舗は、後継ぎがないため閉店しているお店が多いが、そうした店舗は店舗と住居が一緒になっていることが多く、仮に貸し出すとしたら信用できる人にしか貸し出したくないのではないか。そうした店舗に対し、住居と店舗を別にするための建築費の補助が市として求められるのではないか。

- 海辺周辺のシャワーなどの設備が少ないことが課題。鴨川の海は、冬でも水温がある程度高く、ウェットスーツを着用すれば十分サーフィンができる環境であるものの、サーフィン後の着替えやシャワーができる場所がないことがネックになっている。こうした課題を踏まえると、冬でも海辺での体験ができるように更衣室や温水シャワー、ジャグジーなどの施設整備が必要。



意見交換会の様子

4. シンポジウム

4.1 目的

高校生ワークショップや関係団体との意見交換会、市民アンケート結果の分析などをもとに鴨川市が検討した対象地域の将来

像について、市民等の意見を聴取し、ランドデザイン策定に当たっての参考資料とするため、シンポジウムを開催する。

4.2 開催概要

日時及び場所

日時：令和5年3月18日(土) 13:30～ 場所：鴨川市役所4階 会議室

開催概要

1

開会(13:30)

2

挨拶(13:35)

3

鴨川市海辺のランドデザイン(素案)の概要説明(13:40)

4

パネルディスカッション(14:30)

【テーマ】

- ① 旧鴨川市市民会館跡地周辺エリアに必要な機能について
- ② 前原横渚海岸周辺地域の活性化に必要な取組について

【コーディネーター】

鴨川市長 長谷川 孝夫

【パネリスト】

一般社団法人鴨川市観光協会 会長 久根崎 達郎

鴨川市商工会 女性部長 倉島 圭子

鴨川ライフセービングクラブ 会長 水谷 好伸

株式会社NTTデータ経営研究所 パートナー 大野 博堂

5

閉会(15:30)

4.3 パネルディスカッション概要

テーマ① 旧鴨川市市民会館跡地周辺エリアに必要な機能について

- 鴨川シーワールドに次ぐテーマパークが欲しい。
- 賑わい創出のために駐車場整備は必要である。
- 津波を想定した防災機能を旧市民会館周辺エリアに整備する必要がある。
- 海岸線エリアを、ユニバーサルビーチとして整備し、障がいのある方も砂浜を楽しめる環境づくりをしてはどうか。
- 既存遊休施設などの今ある資源を最大限に活用していく。鴨川駅周辺は、たくさんの人で賑わう魅力がある。
- 映画館の誘致やコンサートなどが開催できる文化施設を整備してはどうか。

テーマ② 前原横渚海岸周辺地域の活性化に必要な取組について

- 鴨川有料道路から自家用車で市街地に来たときに、鴨川駅から海辺方面にアクセスするのが困難である。自家用車で訪来を踏まえた海辺エリアへのアクセス性向上の取組が必要である。
- 安心・安全の観点から駐車場が必要である。足りないから路上駐車が多い。危険規制してほしい。できれば立体駐車場の整備が望ましい。
- 旧市民会館跡地と魅力体験広場を大きな拠点として整備する。その拠点の間を多くの人に歩いてもらえると良い。ショップ、レストラン、カフェなどの進出が見込める。
- 旧市民会館エリアから魅力体験広場までの移動を快適にする新モビリティの導入を検討する。それ自体を目当てに来ていただけるようなものにとすると良いと考える。

グランドデザインの実現に向けて必要な取組について

- 今後、地域活性化のための事業を行うに当たっては、地域の声を聴いていくことが重要である。
- 具体的な事業に取り組むに当たっては、民間事業者の参入を検討していくとともに、財源確保の観点から、国などの補助事業の活用やふるさと納税の更なる推進などが必要である。
- あの砂浜を維持することは難しい。ベースとして前原横渚海岸をどうしたいかを決めた上でその次のステップが開発ではないか。
- 色々手を加えてほしくない。ただ、住民がのんびりと過ごせるような空間づくりをしてほしい。



シンポジウムの様子





鴨川市
建設経済部商工観光課